

松井田町下増田下原遺跡調査会報告書《1》

群馬県碓氷郡松井田町

# 下 増 田 下 原 遺 跡

一般県道八本松・松井田線特別道路  
改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

松井田町下増田下原遺跡調査会

## はじめに

松井田町は、中央部を貫流する碓氷川の清流と四季折々の美しさが人々の心を捉えてやまない“県立妙義公園”の山々を南に、西に“妙義荒船佐久高原国定公園”を、西北には“上信越高原国立公園”を有する、群馬県南西部に位置する県内屈指の山紫水明の地であります。

今、町では『和のある、住みよい、豊かな町づくり』・『香り高い文化と教育の町』・『生涯学習の町』を目指し、すばらしい自然と文化遺産に恵まれた周辺観光地と連携し、首都圏へアプローチする都市近郊農業や工業団地造成による工場誘致、既存商店街の施設整備など活力に満ちた魅力あふれる街づくりを進めています。

古来交通の要衝として栄えた松井田には、全国に知られる通行難所碓氷峠があり、明治21年には馬車鉄道が走り、その道に並行するようにアプト式鉄道が軽井沢まで開通したのが明治26年であります。自動車社会となった現在では、道路の整備が一段と進み、平成5年には上信越自動車道が開通し、首都圏も1時間の至近にあります。かつて、万葉集に「ひなくもり碓日の坂を越えしだに妹が恋しく忘らぬかも」などの古歌に残る東國の入り口碓氷峠の簾に広がる「峠の町」の松井田町は、古代東山道の通過地であります。近世において江戸と京都を結ぶ主要幹線道である中山道は、戦後国道18号線と名を変えましたが、依然長野・群馬一首都圏をつなぐ経済活動の人脈として地域の豊な暮らしと文化を育んでいます。

一般県道八木松・松井田線は、松井田町の中心市街地を発し、安中市の北部を通り、群馬郡榛名町西部の上室田を通り八木松に結ぶ道路であります。この県道の松井田町下増田下原地区特別道路改良事業の工事実施に当たり、先行して埋蔵文化財発掘調査を実施したものであります。

発掘調査では、奈良・平安時代の住居址14軒、土坑5基、掘立柱建物跡1軒などの遺構と土師器壺、甕、高台付壺、墨書き、皿、蓋、短頸壺、長頸壺、灰釉陶器、鐵製紡錘車などの遺物が検出されました。その調査報告書であります。

調査では、多くの方々のご協力と関係機関の御指導を賜り心から感謝を申し上げます。

平成13年3月

松井田町下増田下原遺跡調査会

会長 稲 塚 勇

## 例　　言

1. 本書は一般県道 八本松・松井田線特別道路改良事業に先がけた、埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査主体 松井田町下増田下原遺跡調査会(会長 稲塚 勇)
3. 松井田町下増田下原遺跡調査会組織表

区分	平成9年度	職	名
会長	稻塚 勇	松井田町教育委員会 教育長	
副会長	土田 明	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部 文化財保護課長	
理事	内田 守	松井田町教育委員会事務局 社会教育課長	
理事	塙原 功	群馬県安中土木事務所 所長	
会員	巾 隆之	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部 文化財保護課長補佐兼埋蔵文化財第一係長	
会員	小坂純昌之	松井田町教育委員会事務局 社会教育課社会教育係長	
監事	星野知之	群馬県安中土木事務所 次長	
会員	藤巻 幸男	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部 文化財保護課主幹兼専門員	
事務局長	萩原 豊彦	松井田町教育委員会事務局 社会教育課文化財保護係長	
事務局員	田口 修	松井田町教育委員会事務局 社会教育課文化財保護係 主任	
会員	開口 雄子	松井田町教育委員会事務局 社会教育課文化財保護係 主任	
区分	平成12年度	職	名
会長	稻塚 勇	松井田町教育委員会 教育長	
副会長	石井 英雄	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部 文化財保護課長	
理事	内田 守	松井田町教育委員会事務局 社会教育課長	
理事	阿久沢作一	群馬県安中土木事務所 所長	
会員	巾 隆之	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部 文化財保護課長補佐兼埋蔵文化財第一係長	
会員	小坂純昌之	松井田町教育委員会事務局 社会教育課社会教育係長	
監事	桜井 治大	群馬県安中土木事務所 次長	
会員	便 晴彦	群馬県教育委員会事務局文化スポーツ部 文化財保護課主幹兼専門員	
事務局長	萩原 豊彦	松井田町教育委員会事務局 社会教育課文化財係長	
事務局員	壁 伸明	松井田町教育委員会事務局 社会教育課指導主任	

4. 発掘調査は松井田町教育委員会内に事務局をおく松井田町下増田下原遺跡調査会の委託を受け、スナガ環境測設株式会社(前橋市青柳町211-1 代表取締役 須永眞弘)が実施した。
5. 調査担当者 金子正人(スナガ環境測設株式会社)
  - 調査員 菊野博巳 塚田友寿 板垣宏 神津芳夫 岡田あゆ美 山口和宏
6. 遺跡名 下増田下原遺跡
7. 所在地 群馬県碓氷郡松井田町大字下増田字下原2674 1番地外
8. 調査期間 発掘調査 平成10年1月19日～平成10年3月25日  
整理期間 平成12年11月1日～平成13年3月25日
9. 調査面積 2720m<sup>2</sup>
10. 調査経費は開発主体である群馬県安中土木事務所がその全てを負担した。
11. 出土遺物及び図面等の資料は松井田町教育委員会が一括して保管している。
12. 発掘調査の主な作業分担
  - 発掘調査は松井田町教育委員会の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が当たり、調査の指導を須永眞弘・金子正人、調査測量を板垣宏・塚田友寿・神津芳夫・岡田あゆ美、発掘調査の安全管理・外渉事務・遺構写真撮影を神津芳夫、重機運転管理を都丸保男、作業事務を須永豊・柴崎信江が担当した。
13. 本書は、松井田町教育委員会の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が作成に当たり、執筆・構成・編集を須永眞弘・金子正人・菊野博巳、測量図書の整理・遺構図・遺物実測図のトレース・版下作成を塚田友寿、遺物の洗浄・注記・接合を神津芳夫・柴崎信江、遺物実測図を佐々木智恵子、文書清書を金子恵子・須永薰子、内業事務を柴崎信江・須永豊が担当した。

## 凡　例

### 1. 遺跡の位置の基準

基準点 国土地理院の三角点及び水準点 座標系 第IX系

Aa O点座標値 X 36,752.000m Y -90,636.000m

### 2. 遺跡の位置図

国土地理院発行 1/25,000の「松井田」「南経井沢」「経井沢」「三ノ倉」を使用した。

### 3. 実測図の縮尺

平面図 1/500 住居址・土塁 1/60(カマド 1/30) 遺物実測図 1/3を原則とし上記以外の縮尺を使用したときは、その都度表示した。

### 4. 遺構の略号

縄文時代の住居址 -J 奈良・平安時代の住居址-H 土坑-I 柱穴-P 据立柱建物跡-B

### 5. 土層断面の土色名及び土器類の色調名は「新版標準土色帳」(農林省農林水産技術会議事務局監修財团法人日本色彩研究所色標監修)による。

### 6. 調査に際して群馬県安中市木暮事務所を始め、地元の方々の協力を戴きました。

又調査整理について指導助言を賜った群馬県教育委員会、群馬県埋蔵文化財調査事業団、高崎市教育委員会神戸聖語氏他各方面の方々に深甚なる感謝を申し上げます。

## 目　次

1. 調査に至る経緯と経過	1		
2. 遺跡の位置と環境	2		
3. 発掘調査の方法	5		
4. 基本土層	5		
5. 遺構と遺物	6		
(1) 縄文時代の住居址	6		
(2) 奈良・平安時代の住居址	8		
(3) その他の遺構と遺物	11		
(a) 土坑	(b) 据立柱建物跡	(c) 柱穴群	(d) 風倒木痕
6. まとめ	12		
7. 遺物観察表	13		
遺構実測図	17～29		
遺物実測図	30～39		
写真図版(発掘調査状況)	1～9		
(遺物写真)	10～18		

## 挿　図　目　次

第1図 周辺遺跡位置図	2
第2図 下増田下原遺跡平面図	3～4
第3図 基本土層断面図	5
第4図 繩文住居址平面・断面図	6
第5図 繩文住居址遺物実測・拓影図	7
第6図 住居址主軸方向 カマド設置方向図	12
第7図 1～3号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図	17
第8図 4号住居址平面・断面図 撤り方平面図 カマド平面・断面図 貯蔵穴断面図	18
第9図 5-1、-2号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図	19
第10図 6号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図	20

第11図	7号・9号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図	21
第12図	8号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図	22
第13図	10号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図	23
第14図	11号・13号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図	24
第15図	12号住居址平面・断面図 カマド平面・断面図	25
第16図	14号住居址平面・断面図 1・2号土坑平面・断面図	26
第17図	4・5号土坑平面・断面図 1・2・4・5号土坑エレベーション重ね図	27
第18図	掘立柱建物跡・柱穴群平面図	28
第19図	掘立柱建物跡・柱穴群断面図	29
第20図	1～5号住居址遺物実測図	30
第21図	5・6号住居址遺物実測図	31
第22図	6～8号住居址遺物実測図	32
第23～25図	8号住居址遺物実測図	33～35
第26図	8～10号住居址遺物実測図	36
第27図	11号～13号住居址遺物実測図	37
第28図	13号・14号住居址 1・2号土坑遺物実測図	38
第29図	2号・4号・5号土坑グリッド及び一括遺物実測図	39

## 図版目次

- 図版 1 下増田下原遺跡全景 空中写真、調査前現況 東側より、調査前現況 南側より  
作業風景、縄文住居址と2号土坑
- 図版 2 縄文住居址掘り方、縄文住居址No1出土状況、縄文住居址No3出土状況  
2号住居址、3号住居址、4号住居址、4号住居址カマド、4号住居址No11出土状況
- 図版 3 4号住居址掘り方、5号住居址、5号住居址カマド、5号住居址遺物出土状況  
5号住居址No13出土状況、5号住居址No17出土状況、6号住居址  
6号住居址遺物出土状況
- 図版 4 6号住居址掘り方、6号住居址カマドセクション、6号住居址No34・35・37出土状況  
6号住居址支脚出土状況、6号住居址カマド、6号住居址No27・29出土状況  
6号住居址No26出土状況、7号住居址No42・43・46出土状況
- 図版 5 8号住居址遺物出土状況、8号住居址、8～10号住居址掘り方(西側より)  
8号住居址No93・106・107出土状況、8号住居址No76・96等出土状況  
8号住居址No83他出土状況、8号住居址No51・55・78・82・91出土状況  
8号住居址No94カマド煙道部に埋設された甕出上状況
- 図版 6 8号住居址カマド全景、8号住居址カマド全量焼き口部より  
8号住居址カマド掘り方(砂岩の設置状況)、8・9・10号住居址、9号住居址カマド  
9号住居址No108・111出土状況、9号住居址カマド焼き口部より、11号住居址
- 図版 7 11号住居址掘り方南側より、11号住居址掘り方東側より  
12号住居址カマド遺物出土状況、13号住居址遺物出土状況、13号住居カマドセクション  
13号住居址カマド遺物出土状況、13号住居址カマド、13号住居址No133・137出土状況
- 図版 8 13号住居址No132山上状況、13号住居址No135出土状況、13号住居址No131出土状況  
14号住居址、14号住居址掘り方、14号住居址遺物出土状況、10号柱穴、1号土坑
- 図版 9 1号土坑セクション、2号土坑No146出土状況、2号土坑、4号土坑  
5号土坑土層断面、A区全景、掘立柱建物跡と柱穴群、調査完了状況

## 1. 調査に至る経緯と経過

群馬県教育委員会は、平成9年度一般県道八本松・松井田線特別道路改良工事に伴う試掘調査を、碓氷郡松井田町大字下原2674-2番地外及び同町大字小日向字西原2456-1番地外において、平成9年3月11日に実施した。トレンチによる調査の結果次の通り遺構・遺物が検出された。

第1トレンチ 平安時代の住居址・溝・土坑、暗褐色土層から上部器・須恵器出土

第2トレンチ 暗褐色土層から土師器・須恵器出土

第3トレンチ 暗褐色土層から土師器・須恵器出土

第4トレンチ 平安時代の住居址・暗褐色土層から土師器・須恵器出土

第5トレンチ 平安時代の住居址・暗褐色土層から土師器・須恵器出土

以上の結果から調査対象区域内には複数の遺構が存在することが判明したので、群馬県安中土木事務所と協議し発掘調査を実施することになった。調査は平成10年1月19日から平成10年3月25日まで実施した。調査は重機による表土掘削→プラン確認作業・遺構調査に並行して基準点座標・水準取付測量→遺構遺物出土状況写真及び高所写真測量・遺構・遺物出土現況詳細測量図作成の順で行った。

平成12年11月1日より調査整理業務に入る。まず遺物の水洗・注記→接合・復元・観察表の作成・実測図の作成等の順で行い、並行して遺構図面の整理と各種台帳作成整理、写真的整理、トレースの順で報告書の作成作業に入った。

### 調査の経過（日誌抄）

平成10年1月20日	契約書に調印、調査資材及び残土置き場用地の借地地権者宅訪問(竹楽町秋知)用地貸借契約書に仮調印
24日～25日	仮設事務所(プレハブ)設置
26日	実施計画書・担当承諾書・経歴書の提出
30日	調査資材搬入(机・椅子等)
31日	仮設事務所設置用地の正規の調印(借用料支払い)
2月2日	調査資材搬入(カラマツ材太鼓落し・コンバネ等)
12日	調査資材の搬入(パックホウ・キャリアダンプ等)
13日	表土剥削(パックホウ・キャリアダンプ等)抜根、公共座標踏査選点
18日	基準点測量・道路幅杭測量・グリッド杭設置
21日	確認面の精査開始(ジョレン精査)
23日	住居址の発掘作業開始
3月2日	遺構・遺物の掃量開始
4日	一般県道八本松・松井田線西側の表土剥し終了、引き続き県道東側表土剥し開始
16日	柱穴群発掘
22日	空中写真撮影
23日	残土運搬開始
25日	発掘調査・残土運搬・資材搬出完了
平成12年11月1日	整理作業開始
13年3月25日	報告書の発行

### 参考文献

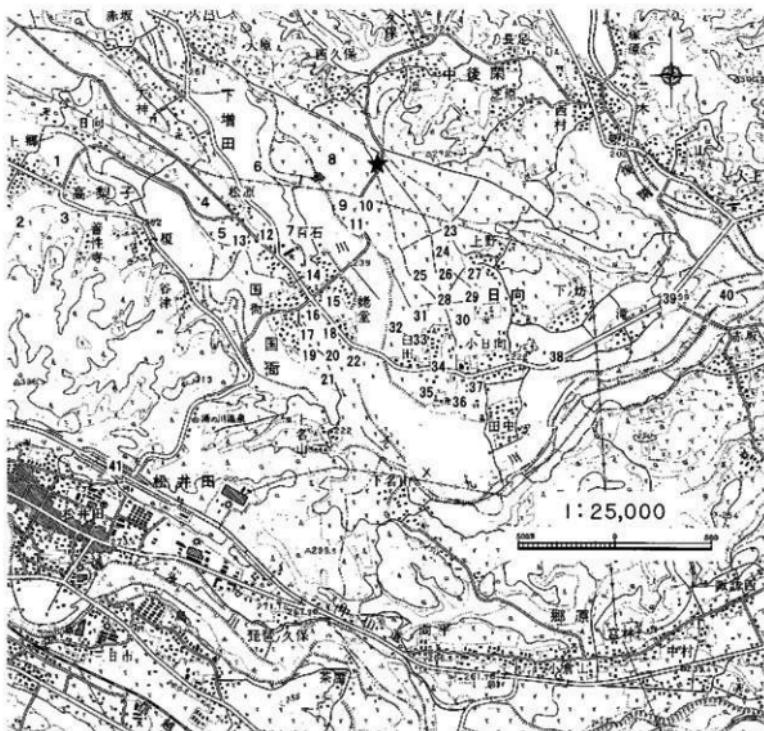
- 「松井田町誌」 松井田町史編纂委員会 1985年  
最新情報欄 出土した古代の土器 展示レポート 平成9年3月 群馬県埋蔵文化財調査センター  
最新情報欄 古墳時代の上器 展示レポート2 平成10年3月 群馬県埋蔵文化財調査センター  
研究紀要 -6- 平安時代の灰陶土器について -十巻とは何か- 三浦京子・黒沢はるみ  
叢文土器の知識 I・II 東京美術出版社 1984年8月・61年6月  
藤井沢中ノ山遺跡I 1988年 群馬県教育委員会 財團法人 群馬県埋蔵文化財調査企事業団  
日本陶磁全集6「古窯」 1976年 中央公論社 塙崎彰一

## 2. 遺跡の位置と環境

下増田下原遺跡は群馬県渋水郡松井田町大字下増田字下原に存在する。調査地は松井田町役場から北へ約4.2kmの九十九地区に位置する。九十九地区は下増田・高梨子・国衛・小日向の4大字よりなる。遺跡は増田川の河岸段丘の台地上にあり、北側は安中市と隣接している。台地の南側は増田川が南東流し、北側には後関川が同じように南東流している。遺跡の南東約1.2kmの台地の東端で合流し九十九川となって東流する。

平成9年3月の試掘調査の結果、道路工事対象地の試掘トレンチから平安時代の住居址・溝・土坑が検出された。また各トレンチからは土師器・復原器の破片が出土している。

今回調査を行った下増田下原遺跡は、増田川左岸台地の頂上部から南側傾斜面にかけて広がる縄文時代前期の住居址と、奈良・平安時代の住居址を伴う遺跡である。当遺跡地の標高は265~271mである。当遺跡の所在する九十九地区的遺跡について概観すると次の1~41の遺跡及び包蔵地が見られる。1 繩文・弥生・奈良・平安時代の遺物包蔵地、2 高梨子三次郎遺跡、3 高梨子中貝戸遺跡、4 将軍塚古墳、5 国衛森浦・朝日遺跡、6 下増田上田中遺跡、7 下増田下田中遺跡、8 下増田十日平遺跡、9 古墳、10 古墳、11 古墳、12 古墳、13 国衛遺跡、14 古墳、15 古墳、16 古墳時代の遺物包蔵地、17 古墳、18 古墳、19 弥生・古墳時代の遺物包蔵地、20 古墳、21 古墳、22 古墳、23 縄文時代の遺物包蔵地、24 古墳、25 古墳、26 古墳、27 弥生時代の遺物包蔵地、28 古墳、29 古墳、30 古墳、31 古墳、32 古墳、33 古墳、34 古墳、35 古墳、36 古墳、37 古墳、38 平山古墳、39 小日向塚古墳、40 天皇塚古墳、41 安宿山遺跡。



第1図 周辺遺跡位置図

# 下増田下原遺跡

S=1:500

X36752.00  
Aa

Af

Ak

Ap

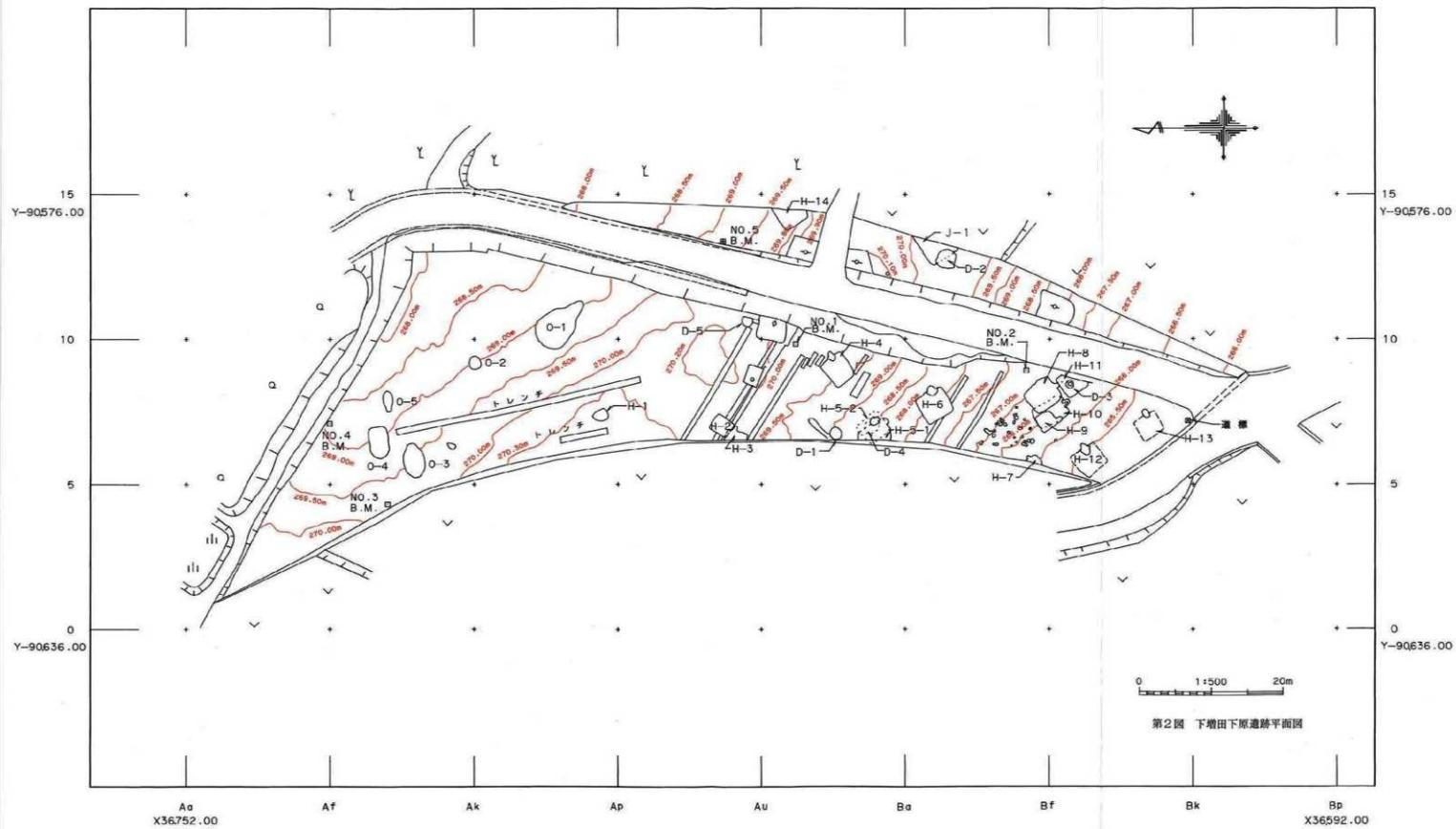
Au

Ba

Bf

Bk

X36592.00  
Bp



第2図 下増田下原遺跡平面図

X36752.00  
Aa

Af

Ak

Ap

Au

Ba

Bf

Bk

X36592.00  
Bp

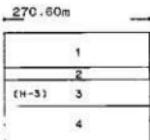
### 3. 発掘調査の方法

調査区北西隅に基準点Aa—O (公共座標X軸 36,752.00m、Y軸—90,636.00m) を設け、これを基準とする大グリッド (100m × 100m) を設置し、X36,652.00m、Y—90,636.00mを大グリッドの境界とするA・Bの大グリッドを設定した。その中を4mメッシュで区画し、東方向にアラビア数字、南方向にアルファベットで表すこととした。水準点は芝原四等三角点 (279.10m) より測定し遺跡内に設定しBMとした。BM 1. 270.00m、BM 2. 267.50m、BM 3. 270.00m、BM 4. 269.00m、BM 5. 269.50mを設定した。

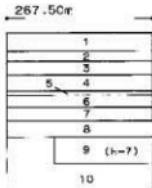
#### 4. 基本土層

調査区のAm—4グリッドとAx—14グリッドを結ぶ線が丘陵の中心部であり、その北側で1.00～1.60m、南側で0.90～1.60mの傾斜地になっている。県道西侧調査区のAt—7グリッド付近では確認面までが0.30m、Bg—5グリッド付近で1.30m、県道東側のAv—14グリッド付近で0.60～0.70mが計測された。

As-6 グリッド



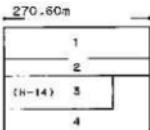
Ba-5 グリッド



- 1 A板石を含む黒褐色土層 (耕作上)
- 2 コムブリック、焼土、灰化土を含む黒褐色土層
- 3 ロームと燒土を含む土層 (3日の土) 黒褐色土層
- 4 黑褐色ローム層 (ロームの第1層)

- 1 黒褐色土層 (耕作上)
- 2 A板石を2%混入する黒褐色土層 (耕作下)
- 3 B板石を含む焼土層 (耕作下)
- 4 B板石層 (焼土灰と砾石層)
- 5 燃土粒とローム粒を含む黒褐色土層
- 6 燃土、ローム粒が5層より多い黒褐色土層
- 7 ローム粒が5層より更に大量になり燃土粒を含む黒褐色土層
- 8 燃土粒を含む黒褐色土層
- 9 燃土粒を多く含む黒褐色土層 (7日の土)
- 10 明黄褐色ローム層

Ax-14 グリッド



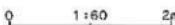
Bg-5 グリッド



- 1 A板石を含む黒褐色土層
- 2 1層よりやや締まりあり B板石を含む黒褐色土層
- 3 黒褐色土、ローム、燒土を含む黒褐色土層 (14日の土)
- 4 雷賀褐色ローム層 (ロームの第1層)

- 1 A板石を含む黒褐色土層
- 2 B板石層 (燃素灰土色)
- 3 C板石とローム粒と礫を含む黒褐色土層
- 4 3層より礫が幾片多く含み縮まった黒褐色土層
- 5 ハーモンブロックと焼土を含む黒褐色土層 (4層より更に締まっている)
- 6 雷賀褐色土層 (5層より更に締まっている)
- 7 雷賀褐色ローム層

- 1 A板石を含む黒褐色土層 (耕作土)
- 2 締かたな焼土粒と板石とローム粒の混入する黒褐色土層
- 3 烧土粒と焼土粒とY板石を含む黒褐色土層
- 4 雷賀褐色コムブ



第3図 基本土層断面図(1/60)

## 5. 遺構と遺物

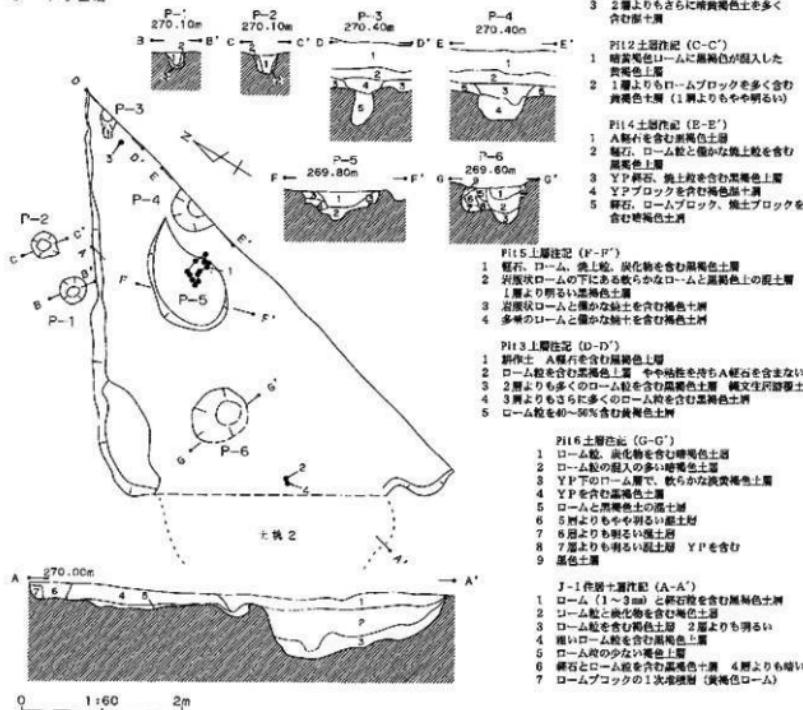
遺構は縄文時代の住居址1軒と奈良・平安時代の住居址14軒、土坑5基、掘立柱建物跡1棟、柱穴群34基、時期不明の風呂倒木痕5基が確認された。

縄文時代の住居址からは深鉢形土器と蔽石が検出され、その他の遺構から一括遺物として石鐵と石斧の破片が検出された。奈良・平安時代住居址からは土師器壊・甕・須恵器壊・高台付塊・墨書き(前)・坏・壺・皿・蓋・短頸壺・長頸壺・灰釉陶器・鐵製紡錘車等が検出された。

### (1) 縄文時代住居址(第4、5図)

Ba-Bb-12・13グリッドに位置する。標高269.71m、床面積10.82m<sup>2</sup>、主軸方向N-54°-E、内壁5.12m壁高19cm、南壁4.26m壁高10cm。隅丸方形を呈するものと思われるが、住居址の東側半分は道路建設予定地区外にかかる為未調査となった。本住居址では主柱穴と思われる2ヶ所(P-1、P-6)が確認された。床面は遺物の出土層位からほぼ推定できたが、あまり堅く踏み固められた床面は見られなかった。炉も調査範囲では確認できなかった。掲載遺物1~5番

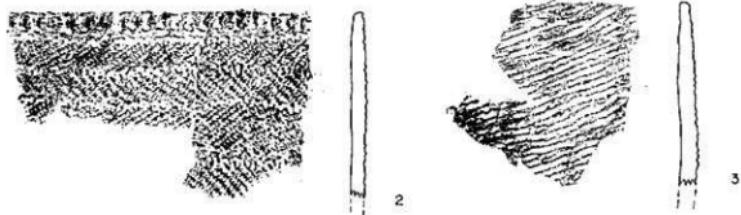
J-1号住居



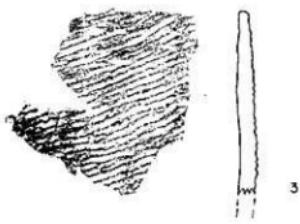
第4図 縄文住居址、平面・断面図 (1/60)



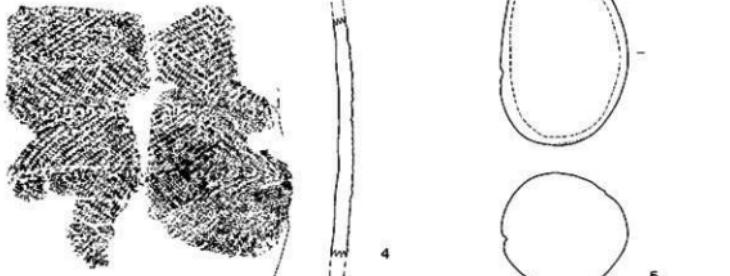
1



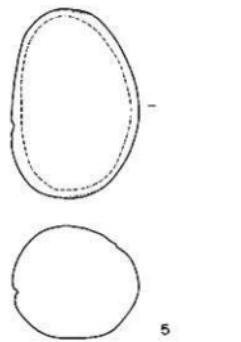
2



3



4



5

0 1:3 10cm  
(2-5)

0 1:4 20cm  
(1)

第5圖 繩文住居址 遺物実測図

## (2) 奈良・平安時代の住居址

### 1号住居址(第7図)

Δo 7グリッドに位置する。長辺2.10m短辺1.80mの範囲で9点の遺物が検出された。これらの遺物の標高は270.345～270.38mと一定している。遺物が分布していてやや堅く、暗褐色を呈している範囲を一応遺構プランとし、その面積は7.61m<sup>2</sup>を計測した。カマド・柱穴等の遺構は確認出来なかった。調査区内にはこの様な遺物の分布を示す所がないので、ここに住居址のあった可能性を考えられるが、耕作が確認面まで達しており、これ以上の記録を取ることは出来なかった。遺物は羽釜の破片と須恵器片と土師器片が検出された。掲載遺物6、7番。

### 2号住居址(第6、9図)

As-6・7グリッドに位置する。標高269.95～270.03m、床面積6.50m<sup>2</sup>、長辺2.82m短辺2.46mの長方形を呈する。壁高は4～4.5cmである。遺物はカマド内から出土した小破片だけであった。耕作により床面も攪乱されており、部分的に確認できるだけであった。カマドと思われる焼土と焼けた硬い砂岩が住居内中央部南寄りで確認された。これは2号住居より後のものであると思われる。

カマドは全長95cm幅62cm以上あったものと思われる。主軸方向N-48°-Eを測る。カマドの構築材として、もうろく硬い砂岩5個を使用し、その内の大きな砂岩は焚口部に鳥居状に使用されたものと思われる。掲載遺物なし。

### 3号住居址(第6、9図)

As-6・7、At-6・7グリッドに位置する。標高269.67m、形状は2号住居と耕作痕によりほとんど不明、カマドの形をした火床部分の焼上跡(全長72cm幅43cm)から住居として記録した。南北は2.83m、東西は1.20mが計測できる。住居のプランは調査区外の北西方向に続くものと思われる。

掲載遺物8番。

### 4号住居址(第7、9図)

調査区中央部の傾斜地頂上部付近Aw-8・9、Ax-8・9グリッドに位置する。標高269.425m、床面積13.72m<sup>2</sup>主軸方向N-52°-Eを測る。長辺4.07m短辺3.21mの楕丸長方形を呈する。壁高は東壁で15cm南壁で3cmを測る。

床面は黒褐色土とロームで固められている。カマドは東壁の中央やや南寄りに位置し、全長96cm幅100cm焚口部45cm主軸方向N-53°-Eを測る。住居の主軸と同一方向を示している。住居内には黄色粘土を使用した両袖が伸び、カマドの構築補強材として、砂岩が9個使用されていた。

貯蔵穴はカマドの右側に位置し、長径70cm短径52cm深さ40cmの楕円形を呈す。須恵器壺、壺を検出した。縦長の住居址で床下七坑の中に2ヶ所焼土を作り七坑が見られた。周溝はカマド左側から住居を一周し貯蔵穴まで巡っている。遺物は耕作による溝2本が住居址を切っていたが、それ以外の所で完形品の須恵器壺等が出土している。掲載遺物9～12番。

### 5-1号住居址(第8、9、10図)

Ax-6・7、Ay-6・7グリッドに位置する。標高268.10m、床面積9.02m<sup>2</sup>、主軸方向N-52°-Eを測る。形状は調査区内で確認できた範囲で長辺4.32m短辺3.03m、東側貯蔵穴の付近で壁高は7cmを測る。カマド前にロームと黒褐色土の混土による堅く踏み固められた床面が見られる。カマドの全長97cm幅96cm焚口部幅23cm主軸方向N-42°-Eを測る。このカマドは土坑4の上に構築されている。

貯蔵穴はカマド右側に位置し多量の土器が出土している。長径115cm幅68cm深さ18cmで楕円形を呈する。掲載遺物13～24番。

### 5-2号住居址(第8図)

Ax-6・7、Ay-6・7グリッドに位置する。標高268.22m、形状は長辺3.96m短辺は3.20～3.30mが推定される。掲載遺物なし。

#### 6号住居址(第10、13、14図)

Ba—7・8、Bb—7・8グリッドに位置する。標高266.96m、床面積16.06m<sup>2</sup>、主軸方向N—60°—Eを測る。形状は長辺4.18m短辺3.90mの楕丸方形を呈する。壁高はカマド側で(北東)54cm、その反対側(南西)で2cmを測る。床面は黒褐色土とロームを混入した土で、よく踏み固められている。住居址中央部の床面下に焼土が見られた。多量の粘土がカマドの上を覆い、その下から焼土と甕の破片が多数出土した。少し大きめの支脚と思われる河原石が燃焼部中央で焼土の上に傾斜して出土した。カマドの主軸方向N—68° E、全長147cm幅155cm焚口部幅66cmを測る。西側は耕作底により擾乱を受けている。遺物は土器壺、須恵器壺・塊等が出士している。掲載遺物25~40番。

#### 7号住居址(第11、14図)

Be—5グリッドに位置する。標高265.87m、床面積0.76m<sup>2</sup>、主軸方向N—48°—E、形状は一辺115cmと小規模な遺構である。住居址の半分以上が調査区外にかかるため全容はわからない。壁高はカマド付近で30cm南側で10cmを測る。床面は調査面積が狭くてはっきりしない。カマドは北東壁右寄りに位置するものと思われる。全長72cm幅45cm焚口部幅20cm主軸方向N—22°—Eを測る。黄色粘土と砂岩を使用している。煙道部に平らな砂岩が斜めに2枚使用されている。小規模で調査範囲が狭い住居であるが検出されたのがカマド付近のため完形遺物が豊富である。土器壺、須恵器壺等が出土している。

掲載遺物41~46番。

#### 8号住居址(第12、14~18図)

Be—7・8、Bf—7・8グリッドに位置する。標高266.16m、床面積は14.91m<sup>2</sup>、主軸方向N—142°—Eを測る。長辺4.28m短辺3.68mやや縦長な楕丸方形を呈する。壁高は北壁で68cm南東隅で28cmを測る。柱穴は不規則な位置であるが4ヶ所確認された。床面は平坦で堅く踏み固められている。東壁側は掘り方も浅く僅かな貼床がされているだけであったが、西壁側は10号住居との重複もあって深く掘り下げられている。カマドは南壁ほぼ中央部に位置し、全長116cm幅90cm焚口部幅45cm主軸方向N—148° Eを測る。掘り方後褐色粘土で砂岩を固定し、粘土でカマドを構築している。焚口部と煙道の差は65cmを測る。

貯蔵穴はカマドの右側に位置する。ほぼ完形の須恵器壺2点、甕1点が貯蔵穴の右脇で検出された。その他に壺、塊等が出土している。長径82cm幅径76cm深さ98cmの横円形を呈す。

8号住居は10号住居と11号住居が埋まってからの住居である。カマドの掘り方の下に11号住居の覆土があり、10号住居のカマド左側の壁が切れており、8号住居の周溝が10号住居の床面を切って作られているので、10号住居と11号住居より8号住居が新しい住居である。

全体的に遺物の出土量が多い。完形品も多い事から何らかの理由で使用できる土器をそのまま放棄したものと思われる。須恵器壺・壺・塊、土器壺、甕・壺、鉄製紡錘車が検出された。

掲載遺物47~107番。

#### 9号住居址(第11、18図)

Be—6・7、Bf—6・7グリッドに位置する。標高266.14m、床面積5.83m<sup>2</sup>、主軸方向N—148°—E、形状は長辺2.48m短辺2.22mでカマド側が窄まる傾向が見られるがほぼ楕丸形に近い。壁高はカマド付近で16cm北側で20cmを測る。

床面はあまり堅く締まっていない。北側と西側に周溝が巡りプランの確認に役立った。10号住居の周溝より浅く重複関係を裏付ける手がかりとなった。カマドは南壁西寄りに位置し、全長78cm幅66cm主軸方向N—146°—Eを測る。西壁とカマド右袖部が直線的に続いているので貯蔵穴も見られないが、左袖部から土盛が検出されている。掲載遺物108~111番。

#### 10号住居址(第18、19回)

Be-6・7、Bf-7グリッドに位置する。標高266.17m床面積は13.24m<sup>2</sup>、主軸方向N-152°-Eを測る。形状は長辺4.78m短辺3.10mやや絶長な隅丸長方形を呈す。壁高は北壁で51cmカマド付近で21cm、掘り方で確認した壁周講により、本住居址の形状を推定することが出来た。床面には多量の焼上と細かな炭化物が見られたが、焼失住居とは考えにくい。カマドは南壁中央部やや東寄りに位置し、カマドの全長110cm幅102cm焚口部幅34cm主軸方向N-137°-Eを測る。平坦で潰れた状態に近いが、良く焼け込んだ焼土とカマド構築に使用した砂岩8個が確認された。掲載遺物112~116番。

#### 11号住居址(第20、23回)

Bf-7・8、Bg-8グリッドに位置する。標高266.275m床面積7.54m<sup>2</sup>主軸方向N-145°-Eを測る。形状は長辺3.42m短辺3.32m隅丸方形を呈す。壁高は北で46cm南で18cmを測る。現在の道路の改良工事の時にカマド部分を破壊してしまったものと思われる。床面は西側半分で黒褐色土とロームを混入し、よく踏み固められているが、東側半分は床面の様子がほとんど見られない。南側調査区端でカマド構築用の砂岩2個が検出された。

8号住居のカマドは本住居の覆土の上に構築されていた。遺物は須恵器坏が検出された。  
掲載遺物117~119番。

#### 12号住居址(第21、23回)

Bf-5・6、Bg-5・6、Bh-5グリッドに位置する。標高265.33m、床面積13.64m<sup>2</sup>、主軸方向N-40°-Eを測る。形状は長辺3.80m短辺3.60mが推定される。壁高はカマドの両脇で5~10cmを測る。床面はカマド前で黒褐色土に少しのロームが混入した貼床が見られたが全体としては不明。

カマドは北壁の中央部に位置するものと思われる。全長123cm幅146cm焚口部幅20cm主軸方向N-62°-Eを測る。カマド前から窓の口縁部が出土している。潰れているが残りは比較的良好方と思われる。カマド右袖側に焼けた煤の付いた3個の砂岩が検出された。

床面がはっきりしないように柱穴も不明である。両側の周溝の中に幅10cm間隔で直径5cmほどの壁柱穴16本が見られた。遺物はカマド前で口縁から脇部にかけての土崩器壺が1点、その他に土師器坏1点、須恵器坏・塊・蓋等の破片を出土している。掲載遺物120~127番。

#### 13号住居址(第20、24回)

Bh-6・7、Bi-6・7グリッドに位置する。標高265.48~265.46m、床面積10.74m<sup>2</sup>、主軸方向N-60°-E、形状は耕作が床面直上まで達していてプラン全体を知ることは出来なかつたが、遺物の分布範囲から長辺3.40m短辺3.10m位が推定される。カマド前に踏み固められた床面が確認された。カマドは東壁の中央部やや南寄りに位置するものと思われる。全長116cm幅86cm支脚の幅20cm主軸方向N-75°-Eを測る。砂岩3個を五徳状に配した支脚が見られた。その他にカマド構築時の補強材としての砂岩4個が確認された。遺物は須恵器坏2点、塊1点、大型の長頸壺の頸部と土崩器壺の破片等が出土している。掲載遺物128~139番。

#### 14号住居址(第22、24回)

Au-13・14、Av-13・14グリッドに位置する。標高269.60m、床面積7.42m<sup>2</sup>、主軸方向N-55°-E北壁が3.60m壁高9cm、西壁3.7m壁高15cmを測る。住居址の約半分は調査区外にかかる。踏み固められた床面があるが凹凸が目立つ。掘り方は全体として浅く、南側では地山の堅いローム面まで37cmで到達するがその他ではこのローム面までも掘っていない。岸溝が北西壁で確認された。遺物は土崩器壺の口縁から頸部にかけての破片と須恵器坏が出土している。掲載遺物140~142番。

(3) その他の遺構と遺物

(a) 土坑 (第25、26、29図)

1号土坑

Aw-6グリッドに位置する。東西172cm南北165cm深さ161.5cmであった。断面形は中央部を掘り落めてロート状を呈する。掲載遺物143、144番。

2号土坑

Bb-12・13グリッドに位置する。長軸260cm短軸250cmほぼ円形で深さ204cm、須恵器の大甕口縁と繩文土器が出土している。断面ロート状で中央部が更に深くなる工法が使用されている。繩文住居と重複する。掲載遺物145、146番。

3号土坑

Bf-8グリッドに位置する。長軸110cm短軸109cm深さ114.5cmであった。11号住居の覆土の上から掘られており、11号住居より新しいものである。掲載遺物なし。

4号土坑

Ax-7・8、Ay-7・8グリッドに位置する。長軸232cm短軸122cm深さ145.5cmであった。断面ロート状で中央部で更に深くなる工法が使用されている。5号住居と重複し住居より古い。掲載遺物147、148番。

5号土坑

At-10グリッドに位置する。東西126cm南北177cm深さ95cmであった。断面ロート状で中央部が更に深く掘り落められている。掲載遺物149番。

(b) 掘立柱建物跡 (第27、28図)

Bc-6・7～Be-6・7グリッドで柱穴群が38本確認された。その内P18・20・22・36・37を組ぶ掘立柱建物跡が確認された。遺物はP37より須恵器が壊1点他3点、土師器壺の破片14点を検出した。遺物出土状況からすると住居跡と同時期の奈良・平安時代の掘立柱建物跡と思われる。

(c) 柱穴群 (第27、28図)

P1・2 土師器2点、須恵器2点内1点は蓋の返り部分。

P9 土師器内面黒色の壺1片。

P13・16 須恵器5点、その内蓋2点、土師器壺17点。

P10 土師器3点、須恵器高台付塊1点、壺2点。

P17 土師器5点内1点は壺の破片。

P33 須恵器3点、土師器11点。

P1・2とP9とP13・16は掘り込みが深く直線的に並ぶ。またP10とP17とP33も直線的に並ぶ。出土遺物は須恵器と土師器が検出されているのでやはり住居と同時期の住穴跡と思われる。

掘立柱建物跡以外の柱穴から検出された遺物は何れも破片であり、実測の対象にする大きさ及び特徴を持つ遺物は検出されなかった。

(d) 風倒木痕

風倒木痕1号 Am-9・10、An-9・10・11グリッドに位置する。

風倒木痕2号 Aj-k-9グリッドに位置する。

風倒木痕3号 Ah-5・6、Ai-5・6グリッドに位置する。

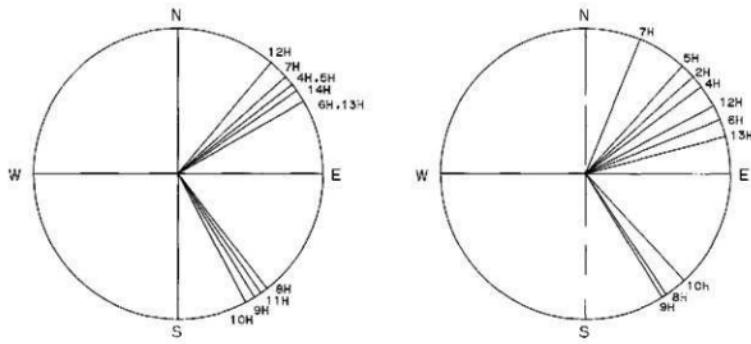
風倒木痕4号 Ag-h-6グリッドに位置する。

風倒木痕5号 Ag-h-7・8グリッドに位置する。

各風倒木痕はロームの第2層の砂岩のような黄褐色土(ローム)で止まっており深く根をはれず倒れ易かったものと思われる。遺物等は見られず時代は不明。

## 6.まとめ

- 地山のロームの第2層に黄褐色の砂岩のように硬化しかけたローム層がある。本遺跡の場合奈良・平安時代の住居では、これをカマドの構築の際の骨組み材として使用し、粘土を貼り付けてカマドを構築している。
- 周溝や壁柱穴は確認されたが、主柱穴は住居の内側はもとより、外側にも規則的に並ぶものは確認できなかった。
- 住居床面検出時の標高は、1号住居270.345m・纏文住居269.71m・14号住居269.60m・4号住居269.425m・6号住居266.96m・8号住居266.16m・13号住居265.46m・12号住居265.33mの地点にあり、1号住居と12号住居の標高差は5.015mある。勾配約74/1000となり、かなりの斜面に住居が分布している。
- 本遺跡の場合、北傾斜地には14号住居のみで、その他の住居は頂上部から南側斜面に偏って存在する。
- 傾斜地での住居の建築は山側をしっかりと掘り、谷側は現地表面で止めるT法が見られる。
- 住居址の掘り込みの浅い割に遺物の残存状態が良好であった。
- この住人達が住居を廃棄するに当たって緊急事態か疫病の発生により生活用具を残したまま、この地域を立ち去らなければならなかつたことが想像される。
- 本遺跡では、遺物の内須恵器が占める割合が多い。
- 本調査区内の住居址で貯蔵穴を設置している住居は5軒、その5軒ともカマドの右側に貯蔵穴を設置している。
- カマドの設置位置は住居址の北東方向と南東方向に2分類される。



第6図 住居址主軸方向

カマド設置方向

- 今回の調査区については住居址の主軸方向とカマドの中心軸方向がほぼ一致しており11号住居址も住居址主軸方向に類似した方向でカマドが設置されていたことが想像される。
- 土坑はまざロート状に掘り、中央を更に掘り込む形態の土坑である。最深部手前で川原石があり、その下に須恵器の破片を埋め込んでいる。その須恵器の下層には灰と淡黄色のロームが混入して軟らかな土層であった。
- 各遺構から縄文時代前期の上器片及び石錐等が出土しているので、この他にも付近に縄文時代の住居が存在する可能性が考えられる。

## 遺物觀察表

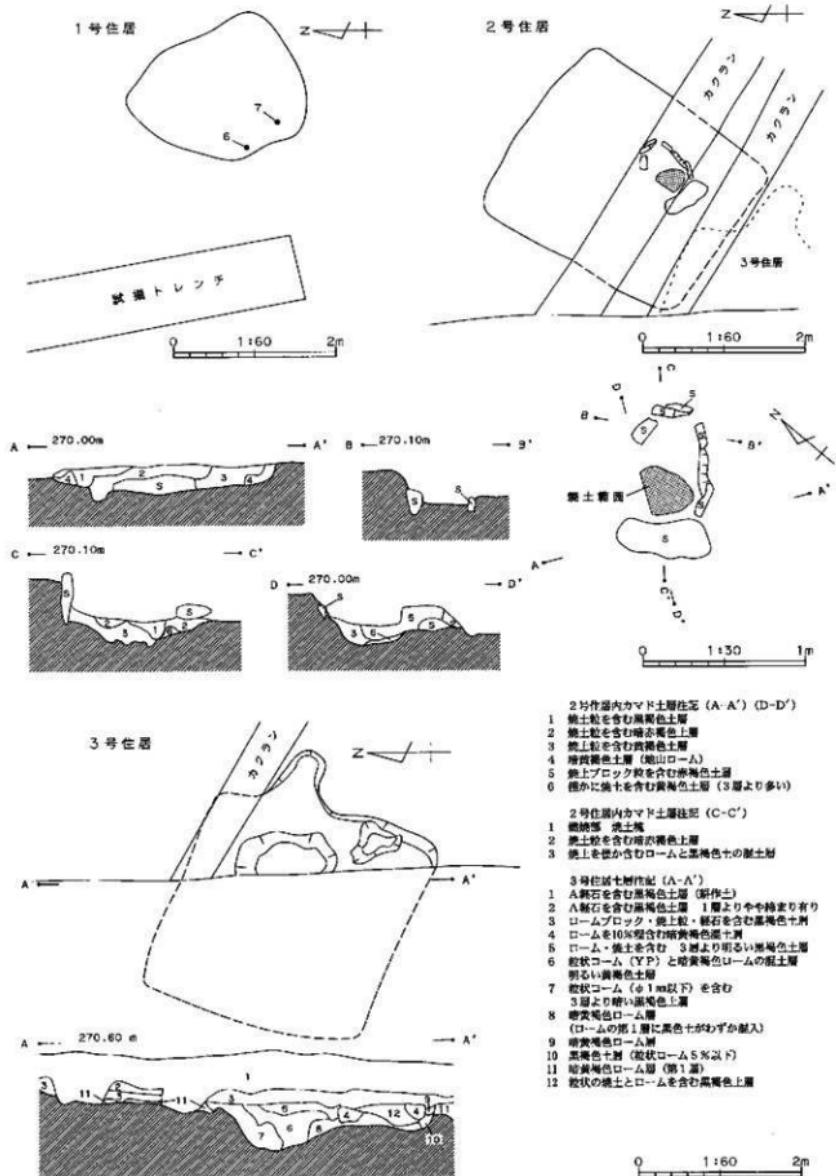
注：遺品は①口型②底径③最高部最大径④縦部厚⑤横部厚⑥長さ⑦幅さ⑧厚さ⑨骨孔の位置 (⑩~⑬cm, ⑭g) ( ) は推定値及び我存痕を示す

№	出土位置	器種	底径	縦	横	厚	色	種	特	備	遺存
1	1J-5~8-10~11-13-1b~20	深鉢形 調文	①各22.0(横円) ②(24.5)	縁部多 数の骨 孔の跡	真	外 黒褐	5YR3/1	1縁は被状を呈し、又2番は1~4側面に被状焼を呈す。1縁に半最終竹葉による張目焼 内面部で 引出焼文 内面部燒	1/8		
2	1J-2	深鉢 (口~腹)	①46.8D/11.4 ②0.9	多量燒 縁少	真好	灰	灰	灰	10RS/2	平口縁 口部は段状にした唇状下眞の先端を唇部に押しあてた状態で底部はU字形。その上に既成 内面部燒 烧文不明	破片
3	1J-26	小型鉢 調文	①(13.0)②(1.2) ③0.6~1.1	縫接 四脚	真好	明赤褐	25YR5/6	丁口縁 滑面は肉厚部に底部へ内凹してまるで斜行 縫接 真好 内面部燒 多量の焼跡を有する	破片		
4	1J-2	深鉢 網狀片	①(52.8)	縫接 多量燒	真	灰赤10R5/2~ 灰赤10R4/3	側面中央に彫刻があり 羽状彫文(単車の結節彫文)	側面中央に彫刻あり 羽状彫文(単車の結節彫文)	2番・3番小孔間で骨孔文を作り 内三輪連珠が日付2番と同一箇所に焼付 焼付	破片	
5	1J	盤山	①(16.6)②9.9③7.9	真	真	真	真	後ろに多少の彫み 両端部に頭が見える	元完		
6	1H-18	杯	②6.5 ③(1.5)	珍妙	真	褐色	褐色	右側面にクロス要領で底部を切り抜く ~3mm土台を足す 左側面に底面を切り抜く(底部に削除痕あり)	底部		
7	1H-19	羽茎	上縫接	縫接	真	やや軟	やよい青	輪郭形成 形成 リクロ成形 化粧	7.5YR6/3	破片	
8	3H-1前	高台付瓶	①(11.0)②(4.0)	砂粒 多量の骨 孔	真好	青灰	10G5/1	瓶底にクロス成形 脱臼付台 瓶口部底に墨塗	口縁部	1/8強	
9	3H-1~2-16~19	瓶	①(12.0)②(27.4)	砂粒 多量の骨 孔	真好	灰白	7.5YR5/2	右側面にクロス成形 瓶底を切り外側口/典型化粧底	3/4		
10	4H-1~2~9~10	瓶	②(2.007)③(0.3)	砂粒	真好	灰白	7.5YR3/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り	ほぼ完		
11	4H-9	瓶	①(12.807)②(0.4)	砂粒 多量の骨 孔	真好	灰白	10Y7/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り 外側黑色底面 内面 焼付	ほぼ完		
12	4H-17	杯	①(12.6)②(7.8)③(3.6)	砂粒 多量の骨 孔	真	灰白	7.5YR2/2	右側面にクロス成形 瓶底を切り 外側黑色底面 内面薄	ほぼ完		
13	5H-39	杯	①(14.0)②(3.0)③(1.1)	砂粒 多量の骨 孔	真好	やや軟	灰	右側面にクロス成形 瓶底を切り 外側黑色底面	ほぼ完		
14	5H-16	瓶	①(18.5)②(7.0)	砂粒	真好	7.5YR6/3	右側面にクロス成形 瓶底を切り	5.5	1/2強		
15	5H-18	瓶	①(18.0)②(6.7)	砂粒	真好	灰	10G5/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り	1/3		
16	5H-13	瓶	①(13.2)②(6.0)③(0.7)	砂粒 多量の骨 孔	真好	灰白	10Y7/1	左側面にクロス成形 瓶底を切り「大」字焼付あり	複数点		
17	5H-24	瓶	①(13.7)②(7.3)	砂粒 多量の骨 孔	真好	灰白	5Y7/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り 内面に黑色の骨物 あり 例焼付に焼付有る、その後水にさらされたあと 片然焼付 烧付無し 件付も	2/3		
18	5H-19	瓶	①(15.0)②(7.1)	砂粒	やや軟	灰	10Y6/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り 瓶口付近に 「切り落し」痕 一部黒色底	底部内面	1/2弱	
19	5H-15	瓶	①(14.0)②(7.2)	砂粒	真好	青灰	10G6/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り 10RC4/1	1/5強		
20	6H-28	皿	①(15.8)②(6.4)	砂粒	真好	暗灰	3PB4/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り 付け舟口 瓶底の 部分に凹みあり	1/2弱		
21	5H-17	盤	①(4.2)②(5.0)	砂粒 多量の骨 孔	真	によい青	5YR6/4	右側面は高く、底下半周に1cm間に開口状工具により 穿孔が施され、外側要割りを施す。底部左 側面は切り抜き 内面にクロス成形	底部		
22	5H-3	皿	①(10.0)②(3.1)	砂粒 多量の骨 孔	やや軟	灰	10G5/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り 内面曲丁窓をなすで 底付灰白 N.R.	底付 灰白	1/2	
23	5H-25~33	高台付壺	①(22.8)②(15.8)	砂粒 多量の骨 孔	真好	暗灰	右側面にクロス成形 瓶底を切り 瓶口部の切欠頭 部にひび割れ 例焼付に焼付有る	右側面 底付	5.5		
24	5H-22	支脚石	①(8.127)②(0.4)	砂粒	真好	SPB4/1	右側面に上部 岩石は墨オーブ灰 2.5GY4/1 火 炎受け(スリーン・ン)	火炎 受け			
25	6H-31	蓋	薄い感覚(3.7)	砂粒 薄い感覚	真好	オリーブ灰	SGV6/1	クロス成形後底から2.6cm軽土追加 その部分の底 部が焼付	調査部		
26	6H-22	皿	①(14.8)②(1.8)	砂粒 多量の骨 孔	真好	青灰	SGV6/1	陶器化成時底の薄体の斜高物の付着 内外に右側断 面焼付	焼付灰 青灰		
27	6H-29	杯	①(13.42)②(6.3)	砂粒 多量の骨 孔	やや軟	オリーブ灰	5R5/1	右側面にクロス成形後正方形の押模押す。凹輪をくり抜 り付 壁付 外側成形後黑色底面 内面焼付 5.5YR3/1	底付 灰白	1/2弱	
28	6H-5	皿	①(14.5)②(9.2)	砂粒 多量の骨 孔	真好	オリーブ灰	10Y7/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り 外側正方形底面 内面焼付 5.5YR3/1 と底部左側に底部焼付を施す	底付 灰白		
29	6H-28	杯	①(14.8)②(0.3)	砂粒 多量の骨 孔	やや軟	灰	2.5GY4/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り 瓶口付近に 底付灰白 内面成形灰白(5YR6/3)	3/4		
30	6H-14	皿	①(29.0)②(3.0)	砂粒 多量の骨 孔	真	灰白	5G6/1	右側面にクロス成形 瓶底を切り 瓶口付近に 底付灰白 N.R.	底部		
31	6H-18	瓦類	①(3.8)	砂粒	青灰	10BG5/1	リヨン成形後台付台付に斜面焼付の工具による 焼付 灰白底面 灰白側面 日付焼付 内面成形焼付	1/2強			
32	6H-36~10カ カ一端	土器	①(21.1)②(20.6)	砂粒	真好	明赤褐	10G5/1	上部に外側に上部側面に側面焼付 外正面底部方向 焼付りそれより上部側面に側面焼付 内面焼付	1/3		
33	6H-6~9~15~7カ 16分~34分	土器	①(22.6)②(21.0)	多量の骨 孔	真好	によい青	2.5YR5/4	口縁は直線的に開き、開口部は火炎を持ち、口縁部内 側に火炎焼付 例焼付 方向焼付	1/4強		
34	6H-14カ~29カ	土器	①(18.6)②(23.0)	多量の骨 孔	やや軟	赤	7.5R4/4	輪郭成形 口縁部に凹状をもつし 内外成形腰 部外側に半周底部方向の密合と底下半周は折り起し瓶 口部削り	1/3弱		
35	6H-15カ~2カ 24カ~25カ 46分	土器	①(26.2)②(20.4)	多量の骨 孔	真	橙	2.5YR6/4	角から腹上半周横方向焼付側面に側面焼付 方 向焼付	4/5 底付		
36	6H-33カ	土器	①(22.0)②(25.8)	多量の骨 孔	やや軟	赤	10RS/2	最大径を口縁部に持つ 口縁部は内外成形腰 部外側に半周底部方向の密合と底下半周は折り起し瓶 口部削り	ほぼ完		
37	6H カ F-1~3- 24カ~28~32~38 32カ~43~47	土器	①(22.2)②(21.4)	砂粒	真好	青灰	10RS/4/1	口縁は強く外側に立ちがらず 瓶底は理形を呈す 側面焼付	3/4		
38	6H 6	支脚石	①(21.0)②(1.1)	砂粒	—	—	新焼付5YR7/7	安山岩灰 灰を受け赤色に変化する 落面付着	火炎		
39	6H-1船	砾石	①(11.706)②(4.0)	砂粒	によい 骨粉	GΥR4/4	全体的に火受け 本体は灰白色 瓶底に底付痕	火炎			
40	6H-1	砾石	①(7.6)②(5.5)	砂粒	灰	5YR6/2	火受け 瓶底部底部底部病あり	火炎	1/2強		

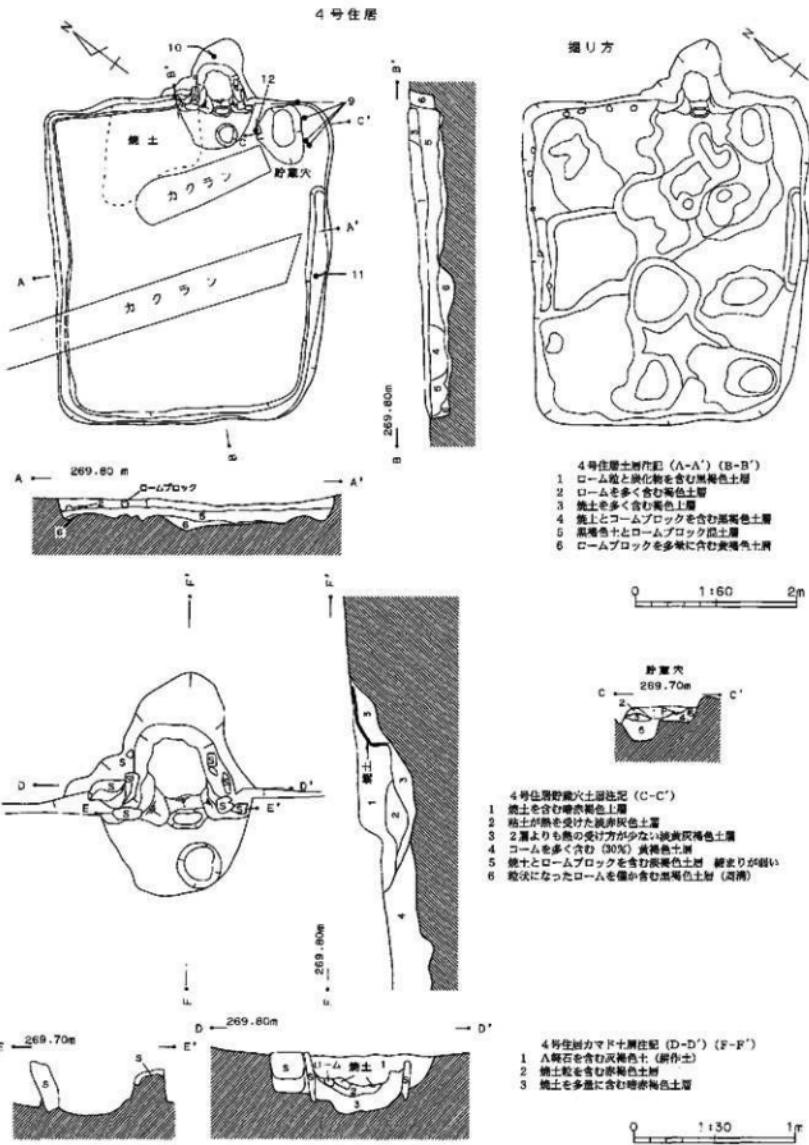
No	出土位置	器種	状態	施上	施成色	型	特徴	備考	
47	TH 37	环	砂	◎(14.3)27.239.0 施成 灰白	砂粒 灰白	SBS/1	右回転クロロ成形 施成糸切り後外周輪郭切削 2層 糸孔 内面凹部に施成糸付付 灰白灰地	丸形	
48	TH-17	高台付焼 灰	◎(15.7)27.950.6 施成	多量砂 やや軟 施成	灰白 7.5YR8/2	右回転クロロ成形糸切り後高台付竹側面内 灰白灰地の施成糸	未完		
49	TH 11-13-14	土師	◎(13.0)40(11.4) ◎(9.6)	砂 施成	灰 7.5YR8/2	左回転クロロ成形糸切り後竹側面内 灰白灰地の施成糸	未完		
50	TH 4-6-8-9カ	土師	◎(9.0)320.4 ◎(22.3)	砂 砂粒	良好 灰黄橙 2.5YR8/4	砂粒成形後口縁側面で 体部外周輪郭り 内面側 内面側	体部成形後口縁側面で 体部外周輪郭り 内面側で	1/4弱	
51	TH-5カ	土師	◎(18.1)◎(7.3)	砂粒	良好 明褐色7.5YR5/6	砂粒成形後 口近部横断で 体部裏面で 内面輪郭り 後周側で 腹部内面に施成糸付 灰白 腹部一帯は灰白 外周輪郭糸付 灰白 7.5YR8/2	口へ斜 上半部	砂粒成形後 口近部横断で 体部裏面で 内面輪郭り 後周側で 腹部内面に施成糸付 灰白 腹部一帯は灰白 外周輪郭糸付 灰白 7.5YR8/2	1/2弱
52	TH-11-29	土師	◎(21.1)◎(9.0)	砂粒	やや軟 施成	5YR8/3	右回転クロロ成形糸切り 外面底部で 外面の一端は施 成糸一端は灰白 外周輪郭糸付 灰白 7.5YR8/2	口綫部 下3/4	
53	TH 5カ	环	◎(6.7)◎(2.0)	砂粒	良好 灰白	7.5YR8/1	右回転クロロ成形糸切り 内面輪郭り 灰白 施成糸	未完	
54	TH-79	环	◎(8.1)◎(1.5)	砂粒 粗砂	やや軟 灰白	SBS/1	右回転クロロ成形糸切り 底部に割り出し 施成糸 内面側と砂粒	底部	
55	TH-15	环	◎(13.0)40(6.8) ◎(3.3)	砂粒 粗砂	やや軟 灰	NS/1	右回転クロロ成形糸切り後 剥離で調整 外面 に施成糸付 灰白 7.5YR8/1	1/3	
56	TH 22-29	环	◎(15.5)27.253.7 施成	砂粒	良好 青灰	SBS/1	右回転クロロ成形糸切り 体部内面ひび割れ 現れ 砂粒によるひび割れ	未完	
57	TH-113 115	环	◎(13.5)◎(7.0) ◎(2.9)	砂粒 粗砂	良好 青灰	SBS/1	右回転クロロ成形糸切り 内外輪郭で 施成糸 畠谷の作り出しが見られる	1/2弱	
58	TH-17	环	◎(13.5)25.053.8 施成	砂粒	良 灰	NS/1	右回転クロロ成形糸板糸切り 畠谷両端端で調整 内外輪郭らか 可湿性有 底部に上月紋		
59	TH-15	环	◎(13.6)◎(6.5) ◎(4.3)	砂粒	良好 灰白	N/1	右回転クロロ成形糸切り 内面裏面化粧付付	1/3	
60	TH-15	环	◎(13.0)◎(7.2)	砂粒	良好 灰	SGS/1	右回転クロロ成形糸切り 体部内面ひび割れ底 部に施成糸付 灰白 7.5YR8/1	1/3	
61	TH-119	环	◎(13.4)27.7.8 施成	砂粒 粗砂	良 灰	SGS/1	右回転クロロ成形糸切り 内外輪郭で 施成糸付 灰白 7.5YR8/1	1/3	
62	TH-15	环	◎(14.0)27.8.6 ◎(3.8)	砂粒 粗砂	良 灰	SGS/1	右回転クロロ成形糸切り 外面の一部反白 (5 YR8/2)	施成 1/3	
63	TH-16	环	◎(14.0)◎(6.8) ◎(3.1)	砂粒 粗砂和粗砂	良好 暗青灰	SGG/1	内外輪郭右回転クロロ成形 畠谷糸切り	1/4	
64	TH-15	环	◎(14.0)26.8 ◎(4.1)	砂粒	良 灰白	NN/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り	1/2弱	
65	TH-15	环	◎(14.0)27.7.5	砂粒	软 灰	NN/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り 口縁から体部に墨跡 有 内面と施成糸付 灰白 7.5YR7/1	1/5	
66	TH 3-	环	◎(14.0)◎(8.1) ◎(3.4)	砂粒	良好 灰	NN/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り 内面悪灰 (5 YR7/1)	1/4	
67	TH-30-33-37	环	◎(14.0)◎(3.5) ◎(4.2)	砂粒 粗砂	良好 灰白	10YR8/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り 底部糸切り後周辺 施成 灰白 7.5YR8/1	1/4	
68	TH-23-24	环	◎(14.0)20.0.4 ◎(3.8)	砂粒 粗砂	良好 灰白	2.5YR8/2	右回転クロロ成形 畠谷糸切り 外面の一部に施成 付 灰白 7.5YR8/2	1/3	
69	TH 20-25	环	◎(14.0)27.55.6 施成	砂粒 粗砂	良好 灰	N/4	右回転クロロ成形 畠谷糸切り 上巻頭 畠谷糸	1/2弱	
70	TH-48-51-127	环	◎(14.0)◎(9.0) ◎(5.5)	砂粒 粗砂	良 灰白	N/7/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り 外面3/4巻板巻を僅 かに上部	3/4	
71	TH-1カ	环	◎(14.0)◎(7.5) ◎(3.6)	砂粒 粗砂	良 灰	bS4/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り 外面施成布 内面 灰白 (7.5YR8/1)	1/4弱	
72	TH-98	环	◎(15.4)27.7.2 ◎(3.1)	砂粒 粗砂	良好 青灰	5BG5/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り 混き練りによる灰 青色 有 施成糸付	1/54強	
73	TH-15	高台付焼	◎(7.0)◎(1.7)	砂粒	良好 灰白	N/4	右回転クロロ成形 畠谷糸切り 内面火捺	灰青	
74	TH-15	高台付焼	◎(7.0)◎(2.3)	砂粒粗砂	良好 灰白	10YR8/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り	2/3	
75	TH-15	高台付焼	◎(7.3)◎(2.8)	砂粒粗砂	良好 灰白	NN/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 灰白 7.5YR8/1	1/2/2	
76	TH-15	高台付焼	◎(7.0)◎(2.9)	砂粒粗砂	良好 灰白	10BG4/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台	L/2	
77	TH-15	高台付焼	◎(7.0)◎(3.0)	砂粒	良好 灰白	7.5YR8/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 内面施成 糸付 中央の開口部有り	施成 L/2	
78	TH-4カ-露	高台付焼	◎(1.8)	砂粒	良好 灰白	2.5YR7/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台	高台部 のみ	
79	TH-107	高台付焼	◎(6.5)◎(3.0)	砂粒 粗砂	良好 灰白	NN/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 外部の 部分に施成糸付 内面灰青色 (2.5YR8/2)	1/2	
80	TH-41	高台付焼	◎(13.0)27.6.5 ◎(4.8)	砂粒 粗砂	良 灰	N/5/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 畠谷部に 施成糸付 表面有り	1/4	
81	TH-15	高台付焼	◎(13.0)◎(7.8) ◎(5.6)	砂粒 粗砂	良好 灰白	10BG5/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 外部に てよう漁舟 内面施成 畠谷の中央は灰白 7.5 YR8/5	1/46	
82	TH-68	高台付焼	◎(14.0)20.6.6 施成	砂粒 粗砂	良好 灰白	bBS/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台部 体 部に粘土付	1/3	
83	TH-55	高台付焼	◎(14.0)20.6.5 ◎(4.5)	砂粒 粗砂	良 灰	-0YR6/1	1機に複数枚 ローリング形 外面仕込み施成糸付		
84	TH-86-16	高台付焼	◎(14.0)20.6.5 施成	砂粒 粗砂	良好 灰白	2.5YR6/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 表面に砂粒 2.5YR6/1	1/3	
85	TH-45	高台付焼	◎(15.0)28.5 ◎(5.5)	砂粒 粗砂	良好 灰白	SPB4/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 表面に砂粒 が浮き出している	1/4	
86	TH-45	高台付焼	◎(15.0)28.5 ◎(5.5)	砂粒 粗砂	良好 灰白	10YR8/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 表面サツ付く	2/3	
87	TH-9	高台付焼	◎(15.2)◎(8.3) ◎(5.6)	多量砂 粗砂	良好 灰白	SPB4/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 表面サツ付く	2/3	
88	TH-87' 1	高台付焼	◎(16.0)27.7.3 ◎(5.5)	砂粒 粗砂	良好 灰白	7.5YR8/1	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 部分的に施成 糸付	1/2	
89	TH-114	高台付焼	◎(16.0)28.6 ◎(5.4)	砂粒 粗砂	良 灰	N/6	右回転クロロ成形 畠谷糸切り後貼付高台 内外壁の その他の焼成色 (10YR2/4)	1/3	
90	TH-70-76	高台付焼	◎(15.0)28.5.0 上	砂粒 粗砂	良好 灰白	7.5YR8/2	右回転クロロ成形後 畠谷糸切り 外面全体に施成 糸付	ほぼ完 成	

No	出土位置	岩	砂	粘	粉	灰	助	土	腐成	色	調	特	考
94	HII-12カ 富一活	巖	(1)18.2 (2)24.4 (3)19.3	砂鉄 砂鉄	東灰	に赤い赤鉄	STBrs		口縁は短く外縁には「コ」字状を呈し全体に丸柱を有する 内面は黒褐色で、内面裏側は白褐色で、内面裏側に凹凸の 横筋が並んで、内面裏側に斜め筋がある	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
95	HII-55-56	巖	土器	(1)13.5 (2)13.5 (3)13.5 (4)8.8	砂鉄 砂鉄	良好	外圓	厚2.5mm H:6.5 内底深2.5 V:6.5	口縫は「コ」字状を呈し唇みを持った口縫部に二段 の横筋があり奥から斜め筋で、前後二斜筋の瓦葺 内面は黒褐色で、内面裏側に凹凸の横筋がある	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
96	HII-83	巖	土器	(1)19.0 (2)20.0 (3)7.5	砂鉄 砂鉄	やや軟	に赤い	SYR4	口縫部は「コ」字状を呈し、外縁に墨色の直線状模様 内面は黒褐色で、内面裏側は墨色工具による擦れ	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
97	HII-150-151	巖	土器	(1)22.0 (2)21.0 (3)13.0	砂鉄	やや軟	2.5SYR6	口縫部は「コ」字状を呈し口縫部墨色で、斜面上 は横一方向の横筋があり内面裏側は斜め筋である	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	
98	HII-149	巖	土器	(1)19.2 (2)4.0	砂鉄	良好	に赤い	SYR4	口縫は「コ」字状を呈し、外縁に墨色の直線状模様で、斜 面方向の瓦葺あり、内面裏側で斜筋がある	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
99	HII-27	巖	須恵	(1)6.0 (2)7.0	砂鉄砂留	良	灰白	N/T	口縫部は「コ」字形が形成され内外に墨色で、内面裏側は 墨色工具による擦れ	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
100	HII-32	巖	須恵	(1)13.0 (2)7.0	砂留	細灰	N/T	内面斜ロクロ形が形成され、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	内面斜ロクロ形が形成され、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	内面斜ロクロ形が形成され、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	内面斜ロクロ形が形成され、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	内面斜ロクロ形が形成され、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	
101	HII-120	巖	土器	(1)3.4 (2)7.6	砂鉄砂留	軟	オリーブ	10SYR3	口縫部ロクロ形が形成され後高台付近で斜筋がある	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
102	HII-15	巖	須恵	(1)14.0 (2)5.6 (3)2.2	砂鉄	やや軟	墨	5SYR2	口縫部ロクロ形が形成され後高台付近で斜筋がある	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
103	HII-2	巖	土器	(1)19.0 (2)14.0 (3)6.5 (4)5.6	砂鉄砂留	良	に赤い	7.5SYR4	口縫部成形後斜筋と斜面高台で外縁上位横筋がありト リ形	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
104	HII-8.9	巖	土器	(1)19.0 (2)16.3	砂鉄 砂留	良好	地	SYR6	横筋成形後斜筋と斜面高台で外縁上位横筋がありト リ形で、斜面高台で斜筋がある	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
105	HII-12	巖	土器	(1)20.0 (2)21.2 (3)6.2	砂鉄 砂留	良好	明赤鉄	2.5SYR5	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
106	HII-68-72/97 148-カ-新	巖	土器	(1)24.0 (2)25.0 (3)16.0 (4)16.0	砂鉄	良好	佳	SYR6	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
107	HII-102	巖	土器	(1)22.0 (2)20.8	砂鉄	やや軟	佳	2.5SYR7	口縫部は「コ」字状を呈し横筋と内面裏側で、口縫部 斜筋と斜面高台で斜筋があり外縁上半部は斜筋で、斜 面裏側は斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
108	HII-5-9+9-13	巖	土器	(1)3.4 (2)5.6 (3)16.2 (4)24.3	砂鉄 砂留	良好	明赤鉄	2.5SYR5	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
109	HII-81-84	巖	土器	(1)21.3 (2)22.0 (3)16.0 (4)16.0	砂鉄 砂留	良好	引出鉄	2.5SYR5	口縫部は「コ」字状を呈し横筋と内面裏側で、口縫部 斜筋と斜面高台で斜筋があり外縁上半部は斜筋で、斜 面裏側は斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
110	HII-141	巖	土器	(1)23.0 (2)22.0 (3)16.8	砂留 塗留	良	明赤鉄	10SYR4	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
111	HII-24-47+55- 67-68	巖	土器	(1)24.2 (2)22.6 (3)17.5	多量の砂 留	良好	赤鉄	2.5SYR4	多量の砂留を含む外縁全体に口縫部横筋で斜筋 後高台の斜筋と内面裏側で斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
112	HII-14-47+55- 67-68	土器	上端	(1)20.0 (2)19.1	砂鉄	良	に赤い	SYR4	内面裏側は斜筋で斜面高台の上位に斜筋がある	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
113	HII-1-4	埴輪	鐵製品	(1)10.0 (2)10.0 (3)4.0	砂鉄 鐵製品	良	引出鉄	SYR4	輪の輪郭は引出鉄で輪郭部は墨色で内面裏側は斜筋 斜面裏側は斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
114	HII-65	刀子	鐵製品	(1)6.7 (2)1.9	砂鉄	良	引出鉄	SYR4	輪の輪郭は引出鉄で輪郭部は墨色で内面裏側は斜筋 斜面裏側は斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
115	HII-7-9	巖	土器	(1)7.0 (2)14.0	砂鉄 砂留	良好	鷺	7.5SYR4	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
116	HII-1	巖	須恵	(1)14.0 (2)23.0 (3)23.0	砂鉄 砂留	良好	鷺	鷺上郡古墳 SPBR	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
117	HII-3	共通	須	(1)11.9 (2)19.7 (3)6.0 (4)19.6	砂留砂鉄 砂鉄	良	青銅	SP16/L5	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
118	HII-2カ	高台行持	須	(1)16.0 (2)15.0 (3)5.2	砂留	良好	白	S/N	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
119	HII-12	貢物付	須	(1)19.0 (2)5.0	砂留	良好	鷺	SYR7	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
120	HII-14-15	地	須	(1)19.0 (2)19.0	砂留	やや軟	火穴	H	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
121	HII-54-55 HII-1-15	大形鉢	土器	(1)27.0 (2)45.0	砂鉄砂留	良好	に赤い	SYR4	口縫部成形後斜筋で斜面高台の上位に斜筋がある	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
122	HII-16	土器	須	(1)14.2 (2)8.6	砂留	やや軟	火穴	SYR4	口縫部は「コ」字形が形成され斜面高台の上位に斜筋 内面裏側は墨色で斜面裏側は斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
123	HII-54 HII-1-15	高台付陶	須	(1)15.0 (2)15.0 (3)8.4	砂留	良好	火穴	N/T	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
124	HII-20	小型壺	土器	(1)15.0 (2)15.0 (3)10.0 (4)9.3	砂留砂鉄	良	暗赤	2.5SYR3	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
125	HII-12-28	巖	土器	(1)23.0 (2)8.4	多量砂鉄	良好	に赤い	7.5SYR4	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
126	HII-1-16	巖	土器	(1)26.0 (2)6.3	多量砂鉄	良好	火穴	7.5SYR3	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
127	HII-5	石器	(1)17.2 (2)16.5 (3)5.3 (4)5.0	砂留砂鉄	良好	火穴	7.5SYR4	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	
128	HII-6-8	壺	土器	(1)14.0	砂留	良好	火穴	H	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
129	HII-8-9	壺	須	(1)11.2 (2)7.6	砂留	良好	火穴	N/T	口縫部は「コ」字状を呈し、内面裏側は墨色で、外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋
130	HII-7-7'2	壺	須	(1)13.0 (2)7.0	砂留	良好	火穴	N/T	口縫部は「コ」字状を呈し後底面側斜筋があり外 面は墨色	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋	口縫 斜筋

No.	出土位置	器種	法 量	鉢 底	成形 法	色 調	特 徴	遺 存
121	12H 1	坏 土師陶	①(1.8)②(2.0) ④(4.1)	多量の砂 底	明赤褐 5YR5/6	口部断面缺て 外側体～底部断面より内面削り出しによる 残さ	ほぼ完 成	
122	12H-1缺	坏 土師陶	①(1.4)②(2.0) ④(4.1)	多量の砂 底	良 灰白	有輪軸ロクロ成形 回転糸切り調整 内部赤熱が透つ ていない	1/4	
123	12H-10	外 須恵	①(4.4)②(7.5) ⑤(5.4)	多量の砂 底	良好 灰白	有輪軸ロクロ成形 回転糸切り 体～底部は調整 せず	ほぼ完 成	
124	12H 2	石隕 黑墨石	①(1.7)②(1.5) ③(3.5)④(2.0)	—	—	平基盤玉型 先端欠損 中期	4/5	
125	12H-1カ	坏 土師	①(2.1)②(2.4) ④(1.8)⑤(1.4)	砂鉄 砂鉄	良好 灰	10YR5/6	1) 頂部に輪廻痕、内外面削削で 外形削へ約1周削削 して底へ残す。2) 突起部を削り、底部を削削して底部 に削成工具による約1～5mmの凹部がある	4/9強
126	12H-16	施 土門	①(18.4)②(18.4) ④(16.0)⑤(7.5)	多量の砂 底	良 明赤褐 5YR5/6	口部部は内面削削して「コ」字状をなす。外側面上半 部横方向 附輪軸方向の窓割り 内立脚上半部横方向 窓割り	口部部 1/2強	
127	12H 2カ	内付窓 土師	③(3.5) 内付窓4.6	多量の砂 底	良好 灰	10R3/4	外側窓周り カルトナード窓付 前後窓付 前後窓付 の部に導入溝	脇部 接合部
128	13H-20	高台付焼成窓	①(8.0)②(3.1)	砂鉄	良好 灰	N5/	ロクロ成形 糸切り 後高台付窓付 内外面赤熱帯 底付/2	
129	13H-27カ・35カ	高台付窓 須恵	②(2.0) 高台付窓1.1	砂鉄 砂鉄	良好 灰	10YR5/1	右回転ロクロ成形 糸切り後高台付窓付 内外面 の部に導入溝	3/6強
130	13H 2	高台付窓 灰釉陶器	②(1.1) 高台付窓6.6	砂鉄	良好 灰	10YR5/1	右回転ロクロ成形 切り離し後貼付窓付 先端調 整体内面削削	底部
131	13H 2カ	坏 須恵	①(13.2)②(6.0)④(1.1)	砂鉄 砂鉄	良好 灰	弱オリーブ灰 2.5GY7/1	右回転ロクロ成形 拾糸あたり 色無窓切削窓 底付あり	2/5
132	13H-1	地支窓 須恵	①(17.6)②(8.6) ④(13.7)	砂鉄 砂鉄	良 青灰	5GY6/1	右回転ロクロ成形 壁部接合底付 窓付底部が入 る	1/1強
133	13H-2カ	坏 須恵	①(13.4)②(6.5) ④(3.0)	砂鉄 砂鉄	軟 灰	10YR4/2	右回転ロクロ成形 口縁糸切り後粘土付 窓付	1/2強
134	13H 31カ	坏 須恵	①(13.4)②(6.5)③(8.9)	砂鉄 砂鉄	やや軟 灰	10YR5/1	右回転ロクロ成形 糸切り後貼付窓付 内外面 窓口部擦付(窓付変化部分)なし	先端
135	13H-49	高台付窓 灰釉陶器	①(17.3)②(6.5) ④(13.7)	砂鉄	良好 灰	10YR5/1	右回転ロクロ成形 切り離し後貼付窓付	2/5
136	13H-22カ 28カ・35カ	外 須恵	①(13.8)②(6.2) ④(4.3)	多量砂 底	やや軟 灰	弱オリーブ灰 5GY7/1	右回転ロクロ成形 糸切り後貼付窓付 内面 底付37カ(4)カ 内面赤熱帯底付 白芯(後染)	1/2
137	13H 1カ	高台付窓 須恵	①(14.7)②(7.5) ④(3.0)	砂鉄 砂鉄	良好 灰	弱オリーブ灰 10GY5/1	右回転ロクロ成形 糸切り後貼付窓付 内外面 窓口部擦付(窓付変化部分)なし	1/4
138	14H-3	坏 土師	①(21.0)②(22.0) ④(18.4)⑤(16.5)	砂鉄	良好 灰	10YR5/1	1) 頂部は「コ」字状を呈し 横窓で、斜肩で、輪廻痕 左上部に施す。2) 斜肩で、輪廻痕	1/1弱 1/5
139	14H-13	坏 須恵	①(13.3)②(3.8)	砂鉄	良好 灰	5GY6/1	右回転ロクロ成形 糸切り後底面調整 内外面 底付	1/2強
140	14H 15	坏 須恵	①(13.6)②(7.0)	砂鉄 砂鉄	良 灰	7.5GY6/1	右回転ロクロ成形 糸切り後貼付窓付 内外面 窓口部擦付(窓付変化部分)なし	1/3
141	15H-カマド	左支脚	①(17.8)②(6.6) ④(6.0)	砂鉄 砂鉄	—	弱オリーブGY4/6	鉢の細かい、あまり締まりのない砂利	先端
142	15H-1カマド	右支脚	①(16.0)②(5.5) ④(6.6)	—	燒	10YR4/6	左支脚により焼き込みが少ない 下面僅か火痕	ほぼ完 成
143	土窯1-1号	坏 須恵	①(12.4)②(8.2)	砂鉄 砂鉄	良好 灰	5BG5/1	右回転ロクロ成形 必底窓付後輪調整	1/5
144	土窯1-1号	大甕	②(3.5) 須恵	砂鉄 砂鉄	良好 灰	5GY6/1	左回転ロクロ成形 内面全体に砂利工具による平行 線が底付によって埋まる 内面接合部に焼月あり	1/2強
145	土窯2-4-6	小甕	①(12.0)②(8.5)	砂鉄	良 灰	10YK4/14	右回転ロクロ成形 外面全体に砂利工具による平行 線が底付によって埋まる 内面接合部に焼月あり	1/3
146	土窯2-36	大甕	②(27.2)③(9.5)	砂鉄 砂鉄	良好 灰	オーリーブ灰 5GY6/1	右回転ロクロ成形 窓部兼合付 外面底部の平行 線が底付によって埋まる 内面接合部に焼月あり	口縁部 1/2強
147	土窯4-1括	坏 須恵	①(18.0)②(20.8) ④(8.8)	砂鉄	やや軟 灰	N6/	右回転ロクロ成形 糸切り後底付 窓付 窓部付灰付 方筋付窓底付 内面灰白(N6)	1/3
148	土窯4-40	大甕	②(0.9)～1.4	多量の砂 底	良好 灰	弱オリーブ灰 2.5GY7/1	輪軸 平面平行き口 3way 游で画面 内面内付灰さ目 土の土の隙間に埋められた焼痕跡	大甕の 底部
149	土窯5-55	高台付窓 須恵	①(2.1)②(5.8)	多量砂 底	良 底付灰	右回転ロクロ成形 回転窓付後貼付窓付 内外面の 一帯に煙けい	1/2強	
150	Ac-3グ-3	深鉢形罐 綱文	③(37.3)④(8.9)	砂鉄 砂鉄	良 灰	弱オリーブ灰 5YR5/4	網は外反する中に立ち上がる LRの坑文が焼痕し 2 ～3状の平行沈渠を1.5cm間隔で施し、曲線文を立窓	碎片
151	Al-12ダ-29	坏 須恵	②(7.0)③(1.5)	砂鉄 砂鉄	良好 灰	7.5GY8/1	右回転ロクロ成形 糸切り後底付 窓付 窓部付灰付 灰	1/2強
152	括	坏 須恵	①(13.3)②(7.0)③(3.9)	砂鉄 砂鉄	良好 灰	N4/	右回転ロクロ成形 糸切り後底付 窓付 窓部付灰付 内面灰白(N4)	先端
153	括	高台付窓 須恵	②(2.0) 高台付窓6.7	砂鉄	良 暗灰	5GY3/1	右回転ロクロ成形 糸切り後底付 窓付 窓部付灰付 内面灰白(内面灰白(N4))	先端

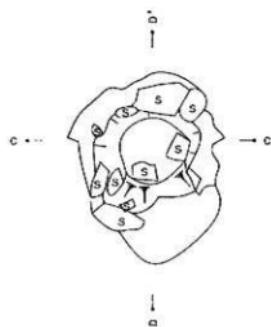
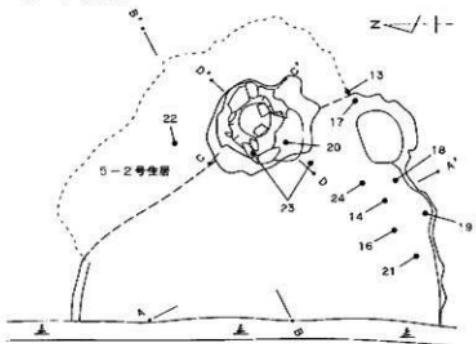


第7図 1~3号住居平面・断面図カマド平面

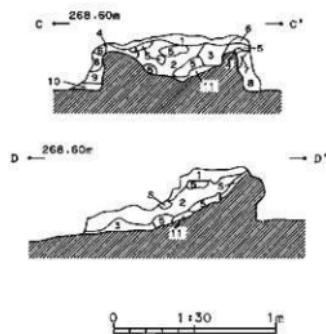
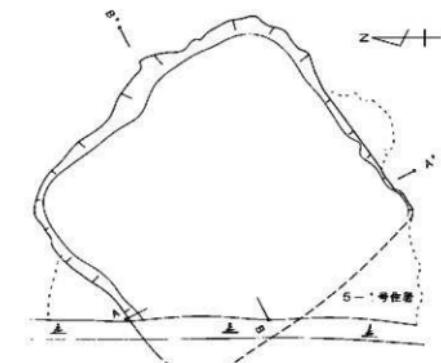


第8図 4号住居址平面・断面図 掘り方平面図 カマド平面・断面図 勝蔵穴断面図

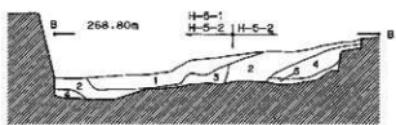
5-1号住居



5-2号住居



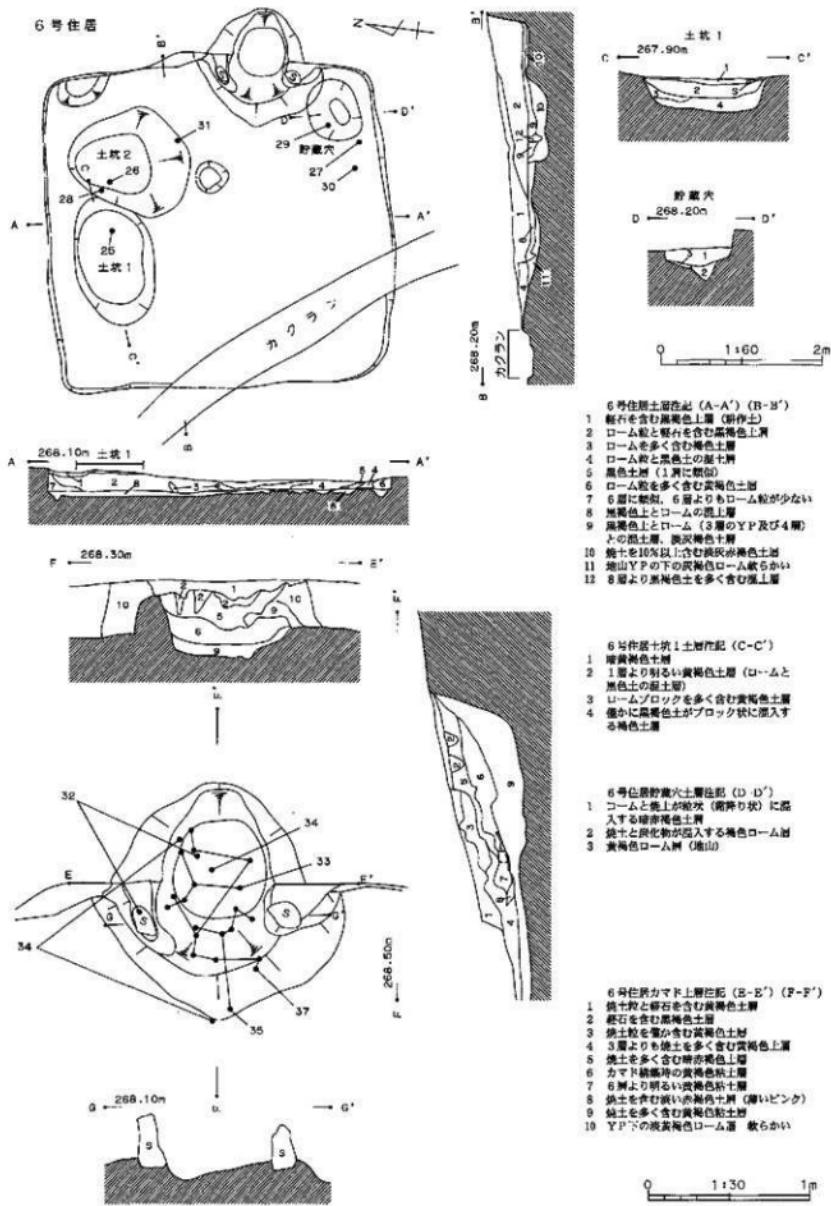
- 5号住居カマド十脚作紀 (C-C') (D-D')
- 1 砂石を含む黒褐色土層 縦まり有り
  - 2 ロームを含む黄褐色土層
  - 3 1層に砂粒（やや粗）とローム粒を含む黒褐色土層
  - 4 砂土を含む暗赤褐色土層
  - 5 地質面のコマープロック
  - 6 4層より灰土を含む黒褐色土層
  - 7 4層より灰土を多く含む暗赤褐色土層
  - 8 ローム粒を含む灰土土層
  - 9 ローム粒を8層より多く含む暗赤褐色土層
  - 10 砂石・ローム粒の見られない黒褐色土層
  - 11 赤褐色土層上層



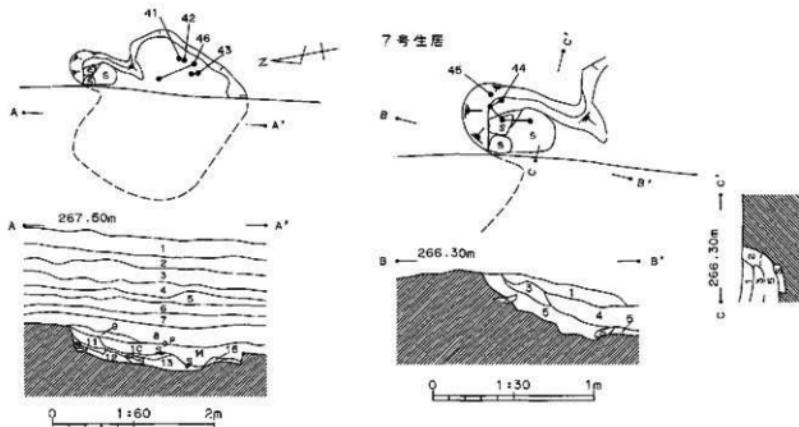
- 5号住居十脚作紀 (A-A') (B-B')
- 1 砂石を含む黒褐色土層
  - 2 砂石を含む黒褐色土層
  - 3 ロームを含む黄褐色土層
  - 4 砂土とロームを含む暗赤褐色土層
  - 5 4層よりロームを多く含む黄褐色土層  
(3層よりやや明るい)

0 1:60 2m

第9図 5-1、-2号住居平面・断面図 カマド平面・断面図



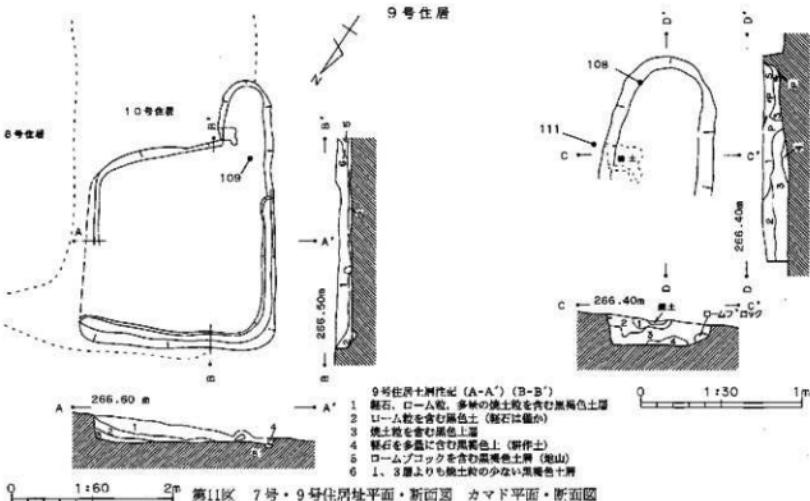
第10図 6号住居北平面・断面図 カマド平面・断面図



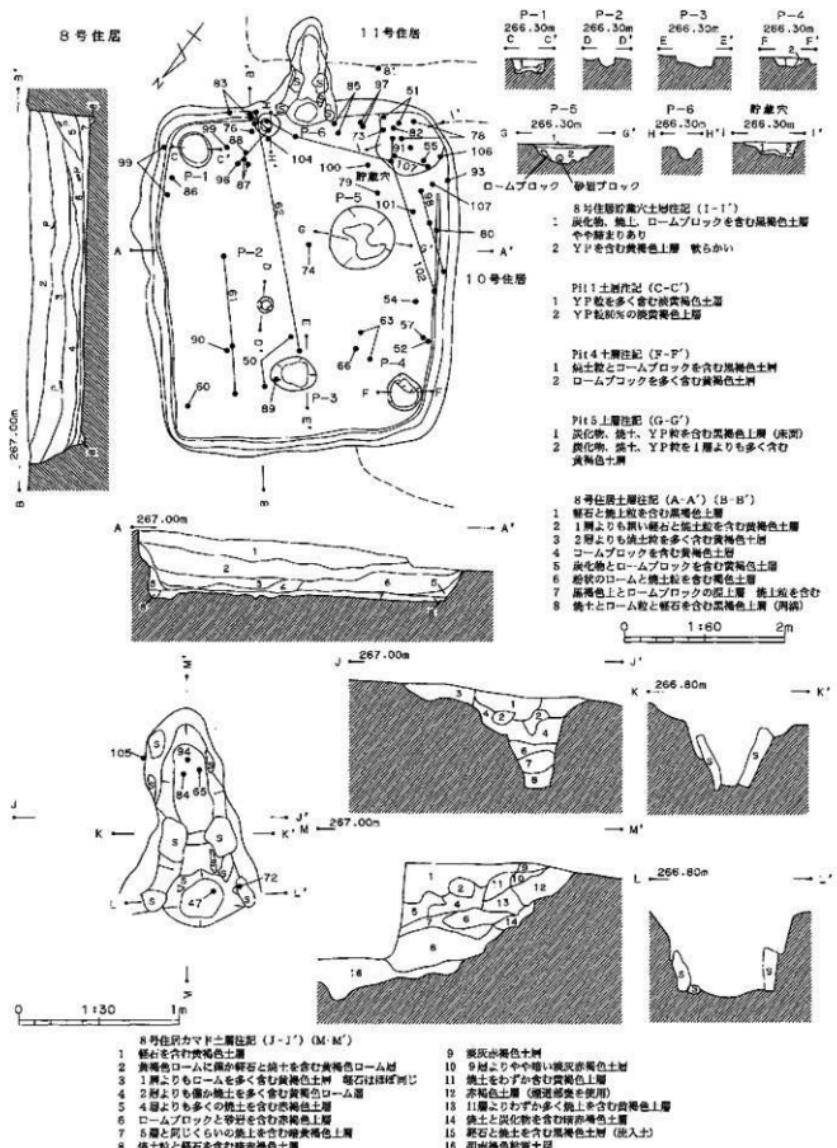
- 耕作土 最近の耕作地帯 黒褐色土層 軟らかい
- 耕作土 深い耕作の状況 1層より深か八重石を含み、軟らかい
- A八重石を含む黒褐色土層 軟らかい
- B八重石を含む黒褐色土層 軟らかい
- B八重石 (赤鉄火成岩類似石)
- 拂土粒とロームを含む黒褐色土層 やや締まりあり、0.1m以下
- 6層より上粒が多くなりローム粒も大きな黒褐色土層 やや締まりあり、0.1~5mm
- 7層よりさらに粒が大きい (0.5~10mm) 拂土粒を含む黒褐色土層
- 8層を含む黒褐色土層
- 9層を含む黒褐色土層
- 10層を含む黒褐色土層
- 11層を含む黒褐色土層
- 12層より多くの拂土を含む黒褐色土層
- 13層を含む黒褐色土層 (カマドの前の洗削)
- 14層を含む黒褐色土層
- 15層を含む黒褐色土層 (ローム第1透)

- 拂土粒を含む黒褐色土層
- 拂土を含む黒褐色土層
- ほとんど拂土の見られない黒褐色土層 (僅か熱を受けた土)
- 粒状の拂土とロームブロックを含む黒褐色土層
- 4層よりも多くの拂土を含む層が黒褐色土層

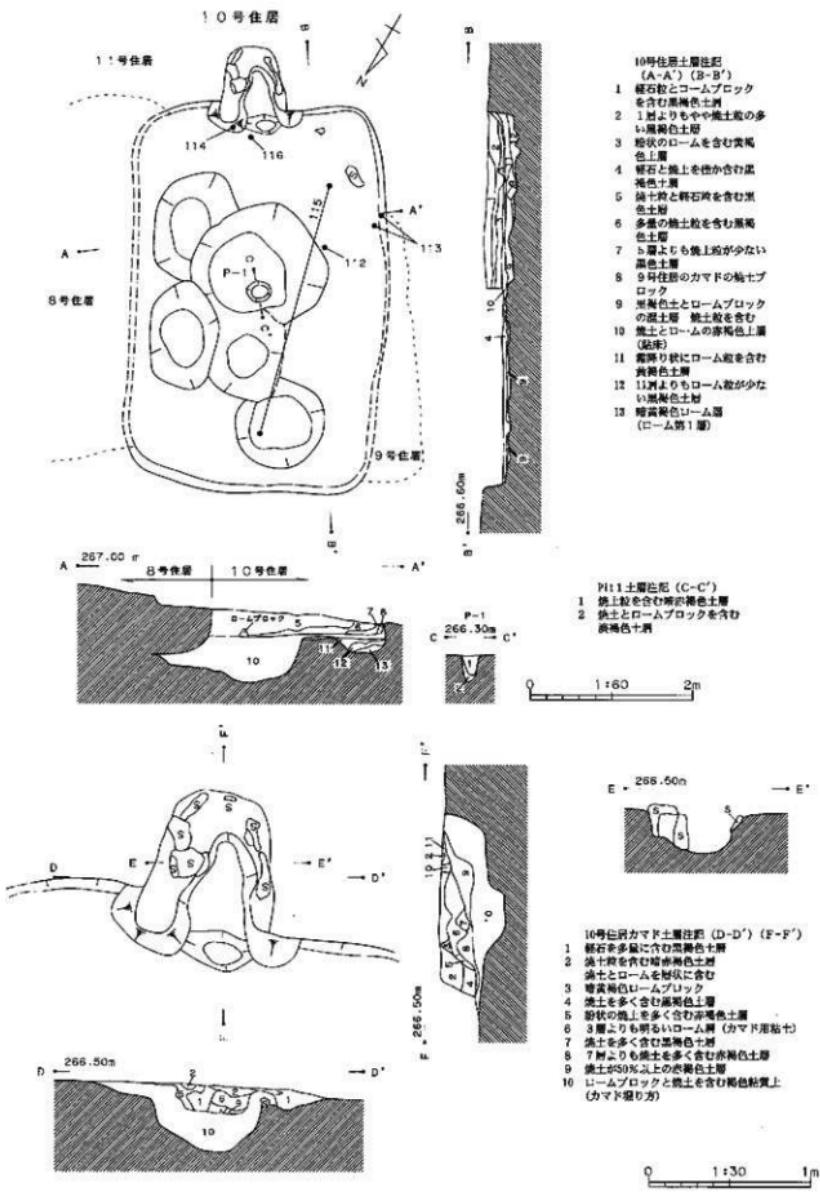
- 拂土粒とローム粒を含む黒褐色土層
- 1層よりも拂土粒とローム粒が少ない黒褐色土層
- 2層よりも拂土粒とローム粒が少ない黒褐色土層
- 4層よりも拂土粒とローム粒が多く1層よりも少ない黒褐色土層



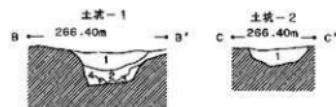
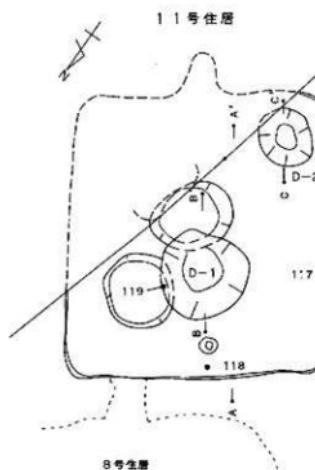
0 1:60 2m 第11回 7号・9号住居層平面・新田図 カマド平面・断面図



第12図 8号住居断面・断面図 カマド平面・断面図



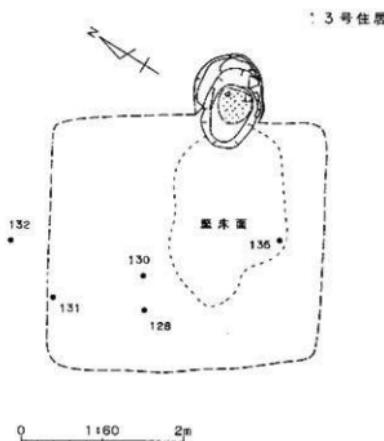
第13図 10号住居平面・断面図 カマド平面・断面図



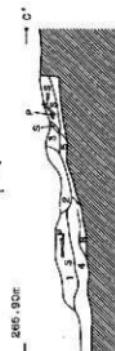
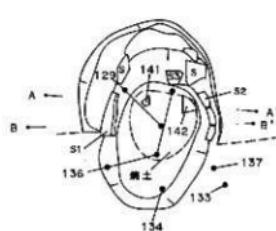
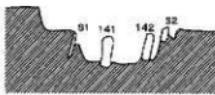
- 11号住居上層柱記 (A-A')
- 1 砂岩とローム粒 (1%) を含む黒褐色土層
  - 2 1層よりもややローム (5%) が多い黒褐色土層
  - 3 1~3cmのロームブロック (10%) を含む黒褐色土層
  - 4 ローム粒 (30%) を含む黒褐色土層
  - 5 ローム粒 (20%) を含む黒褐色土層
  - 6 コーム粒 (50%) を含む黒褐色土層

- 七坑-1土層柱記 (B-B')
- 1 砂岩とローム粒を含む黒褐色土層
  - 2 1層よりも砂岩がなくロームブロックを含む黒褐色土層
  - 3 リームブロックが多くやや粗らかな黒褐色土層

- 上坑-2土層柱記 (C-C')
- 1 砂土とロームブロックを含む暗褐色土層



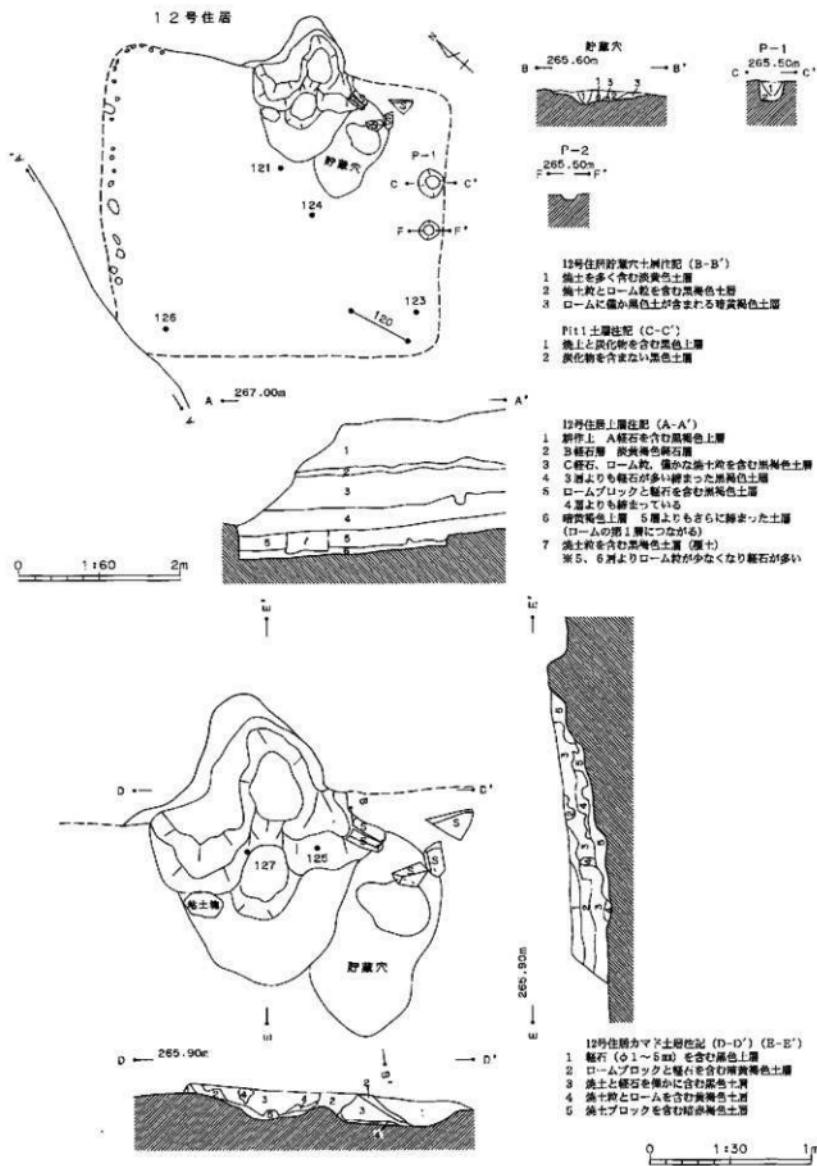
A ← 265.90m → A'



- 13号住居カドド土層柱記 (B-B') (C-C')
- 1 磷灰石を含む黒褐色土層
  - 2 滅土を含む堆積物褐色土層
  - 3 2層よりも多くの廃土を含む黒褐色土層  
(5層よりも廃土は少ない)
  - 4 わずかに廃土を含む黒褐色土層
  - 5 廃土の下に廃土を含む黒褐色土層
  - 6 廃土を最も多く含む黒褐色土層
  - 7 粗らかな黒褐色土 (小礫の多い)
  - 8 4層よりも多くの廃土を含む黒褐色土層

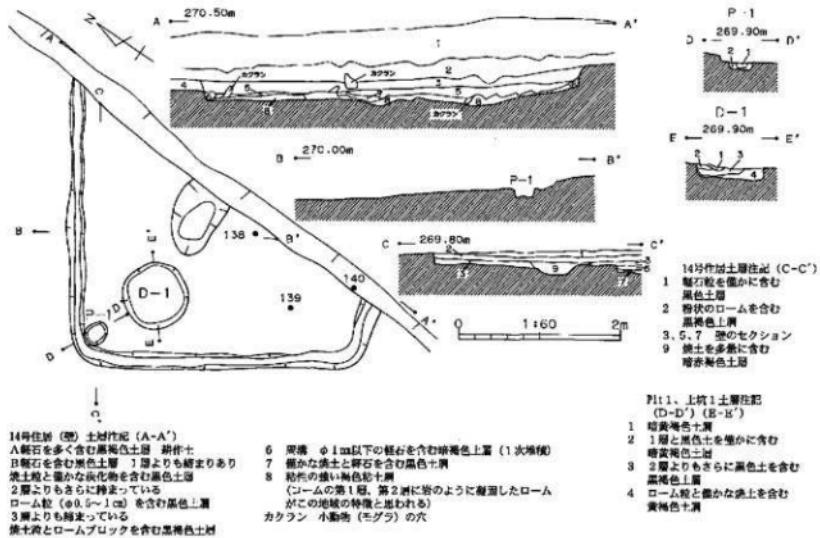
0 1:30 1m

第14図 11号・13号住居平面・断面図 カマド平面・断面図

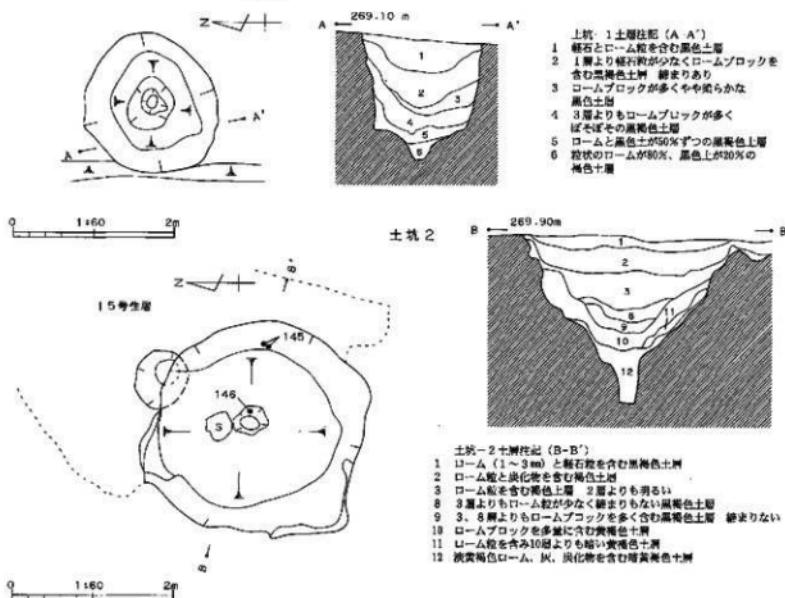


第15図 12号住居平面・断面図 カマド平面・断面図

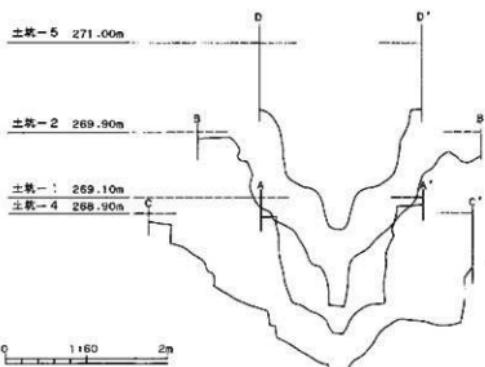
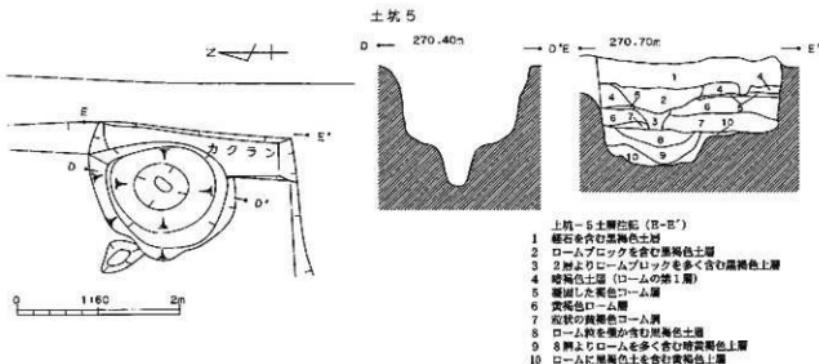
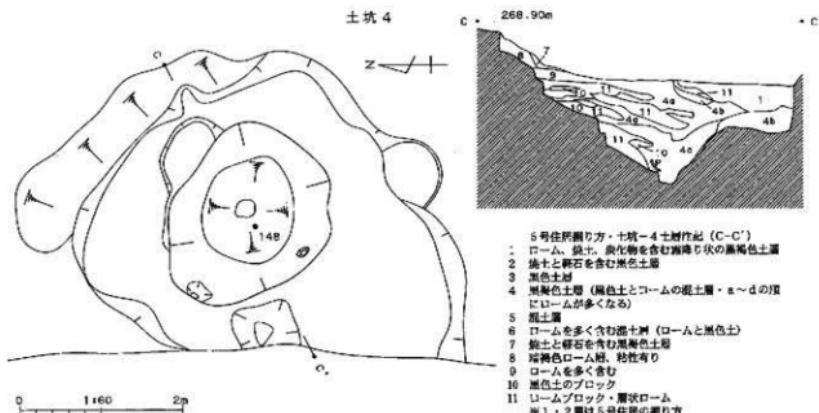
14号住居



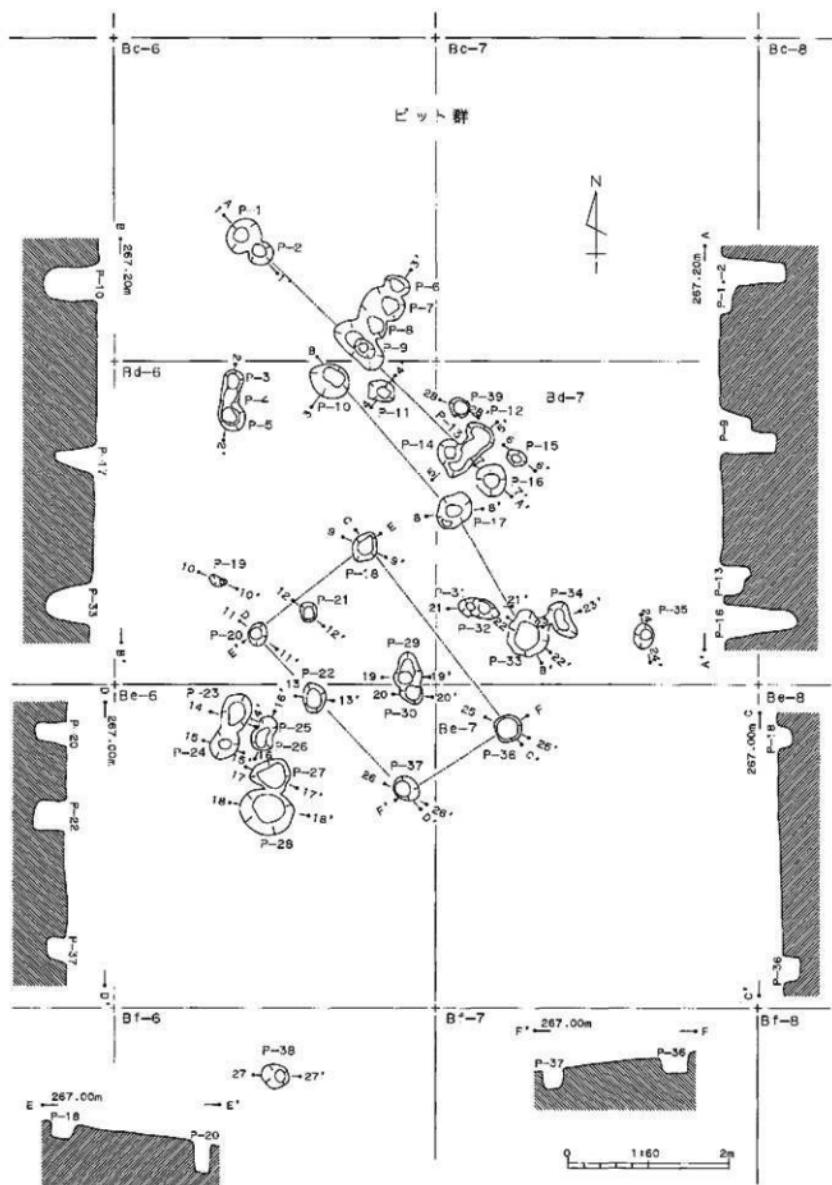
土坑 1



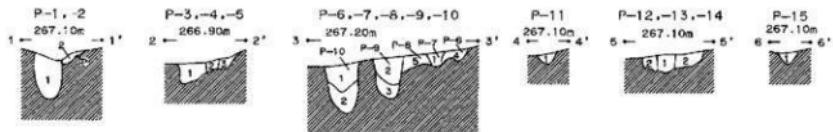
第16図 14号住居平面・断面図 1・2号土坑平面・断面図



第17図 4・5号土坑平面・断面図 1・2・4・5号土坑エレベーション重ね図



第18図 捨立柱建物跡・柱穴群平面図



Pit 1, 2上層柱記 (1-1')

- 少量のロームを含むはそばその黒褐色土層
- 1層よりもロームの量が多いはくばそばその黒褐色土層

Pit 1～9土層柱記 (2-2')

- 層かなロームを含む黒褐色土層
- ロームブロック (5-10cm) を含む黒色土層
- 1層と層付する黒色土層
- ロームの量が1層より多く3層より少ない黒褐色土層
- ロームとロームブロックを多く含む黄褐色土層

Pit 10上層柱記 (3-3')

- 塊状り状のロームを含む黒褐色土層 遷移を多く含む
- 1層よりもロームの量の少ない黒褐色土層

Pit 11上層柱記 (4-4')

- 焼土粒を含む赤褐色土層

Pit 12～14土層柱記 (5-5')

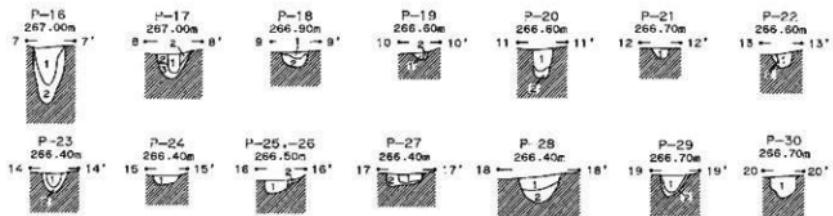
- コームブロックを多く含む黄褐色土層
- コームブロックを含む黒褐色土層

Pit 15上層柱記 (6-6')

- ローム粒を含む黄褐色土層

Pit 16上層柱記 (7-7')

- 輕石とコーム粒を含む黒色土層
- 1層よりもロームの量の大きな黒色土層



Pit 17上層柱記 (8-8')

- 焼土粒とローム粒を含む黒色土層
- 1層より大きなローム粒を含む黒褐色土層
- 1層よりやや焼土粒を多く含む黑褐色土層

Pit 18上層柱記 (9-9')

- Y字形を含む暗赤褐色土層
- 1層よりもさらによいPが少ない黒褐色土層

Pit 19上層柱記 (10-10')

- 地山のロームに高層土をシミ状に含んだ暗褐色土層
- 暗褐色土層 地山のローム

Pit 20上層柱記 (11-11')

- ローム粒と軽石粒を含む黒褐色土層
- 1層に網状しているのが歌らかなローム ブロックを含む暗褐色土層

Pit 21上層柱記 (12-12')

- ローム粒と軽石粒を含む黄褐色土層

Pit 22上層柱記 (13-13')

- ローム粒と軽石粒を含む黒褐色土層
- 地山のロームに1層が強化する暗黃褐色土層

Pit 23上層柱記 (14-14')

- 焼土粒と軽石粒を含む黒褐色土層

Pit 24上層柱記 (15-15')

- ローム粒を含む黒褐色土層

Pit 25上層柱記 (16-16')

- ローム粒と軽石粒を含む黒褐色土層
- 暗褐色ローム第1層に黒色土が混入したシミ状の暗赤褐色土層

Pit 26上層柱記 (17-17')

- 焼土粒と軽石粒を含む黒褐色土層
- 地山の第1層ロームを含む暗黃褐色土に黒色土が混入している暗黃褐色土

Pit 27上層柱記 (18-18')

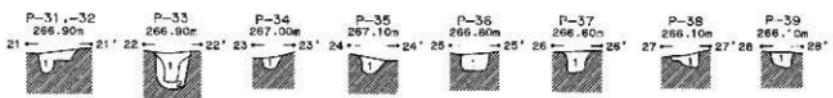
- 焼土粒とローム粒を含む暗褐色土層
- 暗褐色土と黒褐色土の見上層
- 地山の暗黃褐色ローム層

Pit 28上層柱記 (19-19')

- ロームブロック (2～5 cm) を含む暗黃褐色土層
- 地山の暗黃褐色ローム層

Pit 29上層柱記 (20-20')

- ロームブロックを含む黒色土層



Pit 31, 32上層柱記 (21-21')

- 暗褐色土と黒色土の底層

Pit 33上層柱記 (22-22')

- 焼土粒を含む黒褐色土層
- ロームブロックを含む黒褐色土層

Pit 34上層柱記 (23-23')

- ロームブロックを含む暗褐色土層

Pit 35上層柱記 (24-24')

- ロームブロックを含む暗褐色土層

Pit 36上層柱記 (25-25')

- 黒褐色土層

Pit 37上層柱記 (26-26')

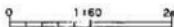
- 黒褐色土層

Pit 38上層柱記 (27-27')

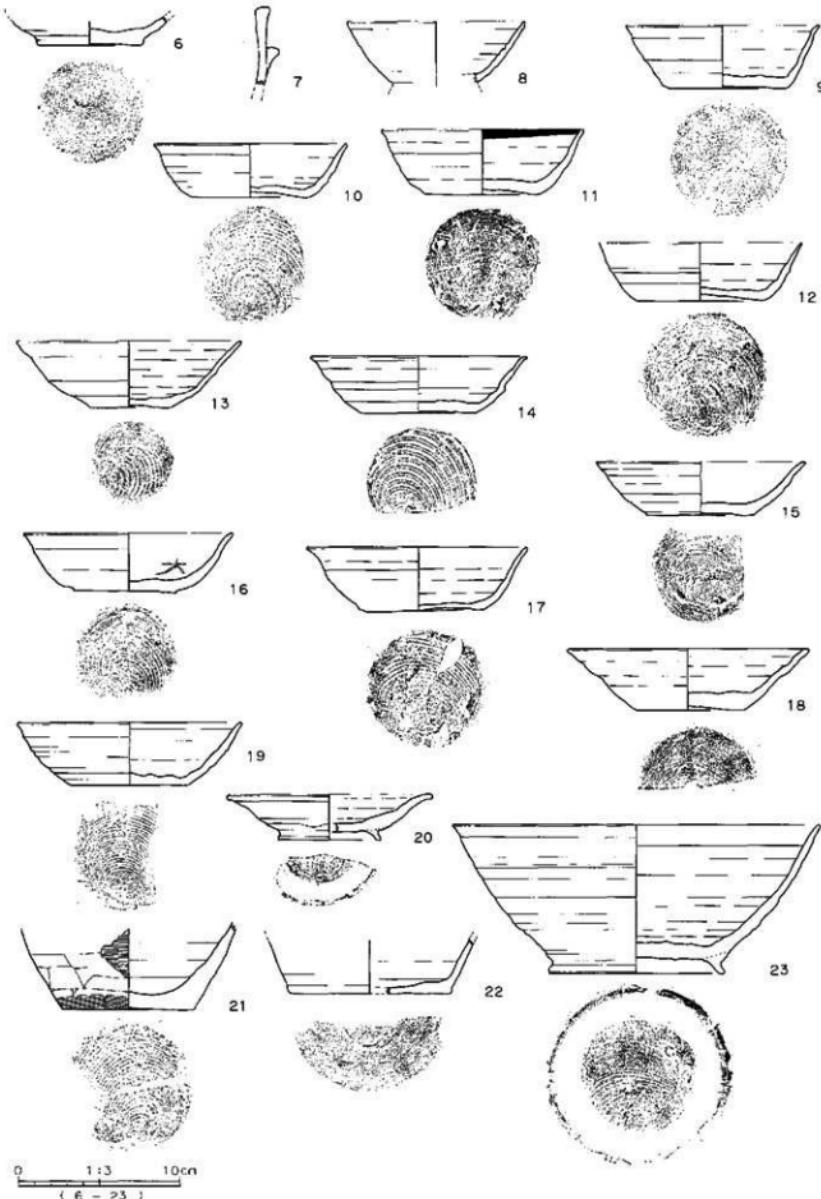
- ロームブロックを含む暗褐色土層

Pit 39上層柱記 (28-28')

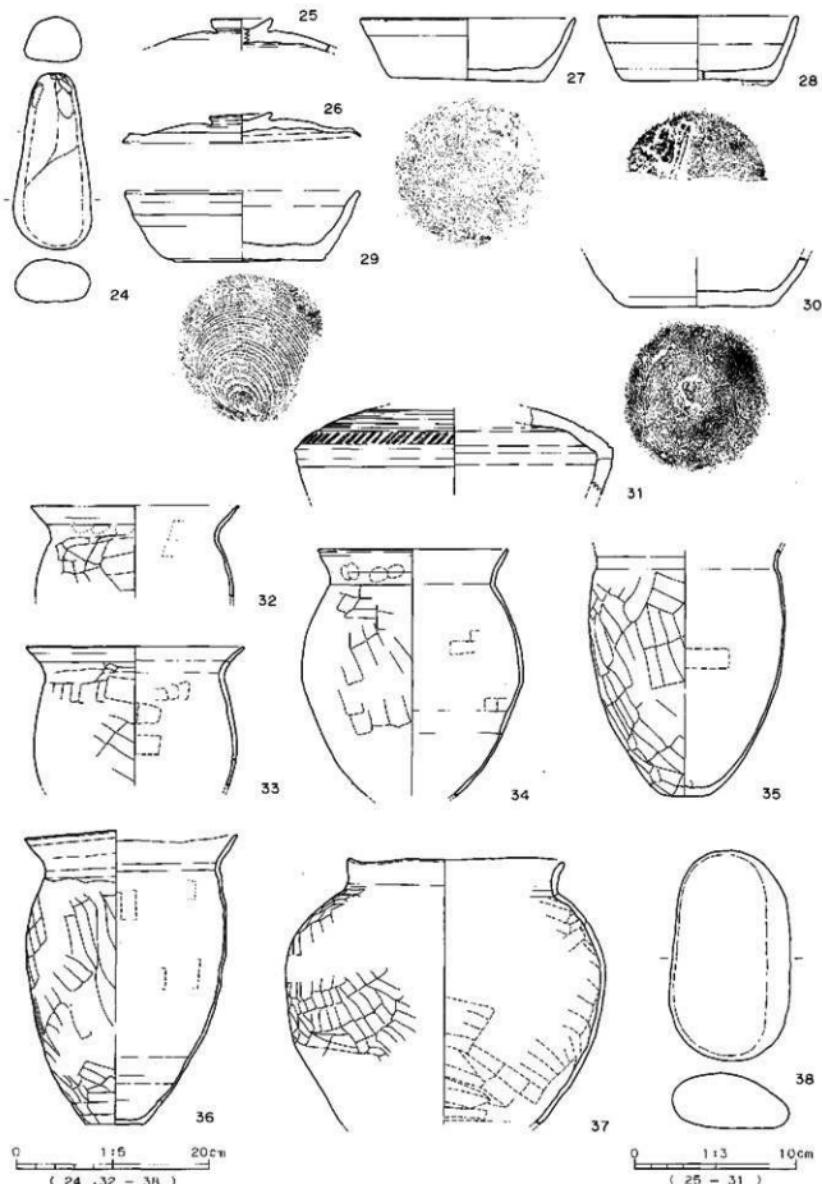
- ロームと灰化物を含む暗褐色土層



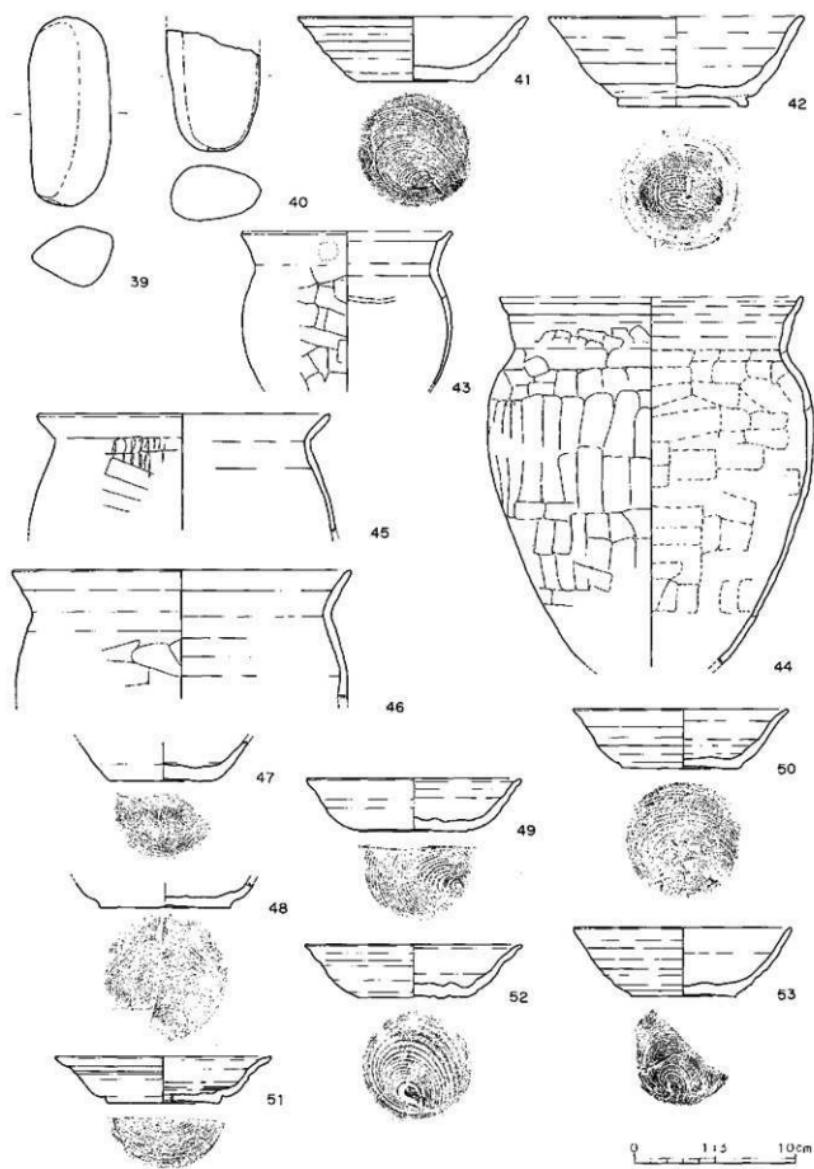
第19図 竪立柱建物跡・柱穴断面図



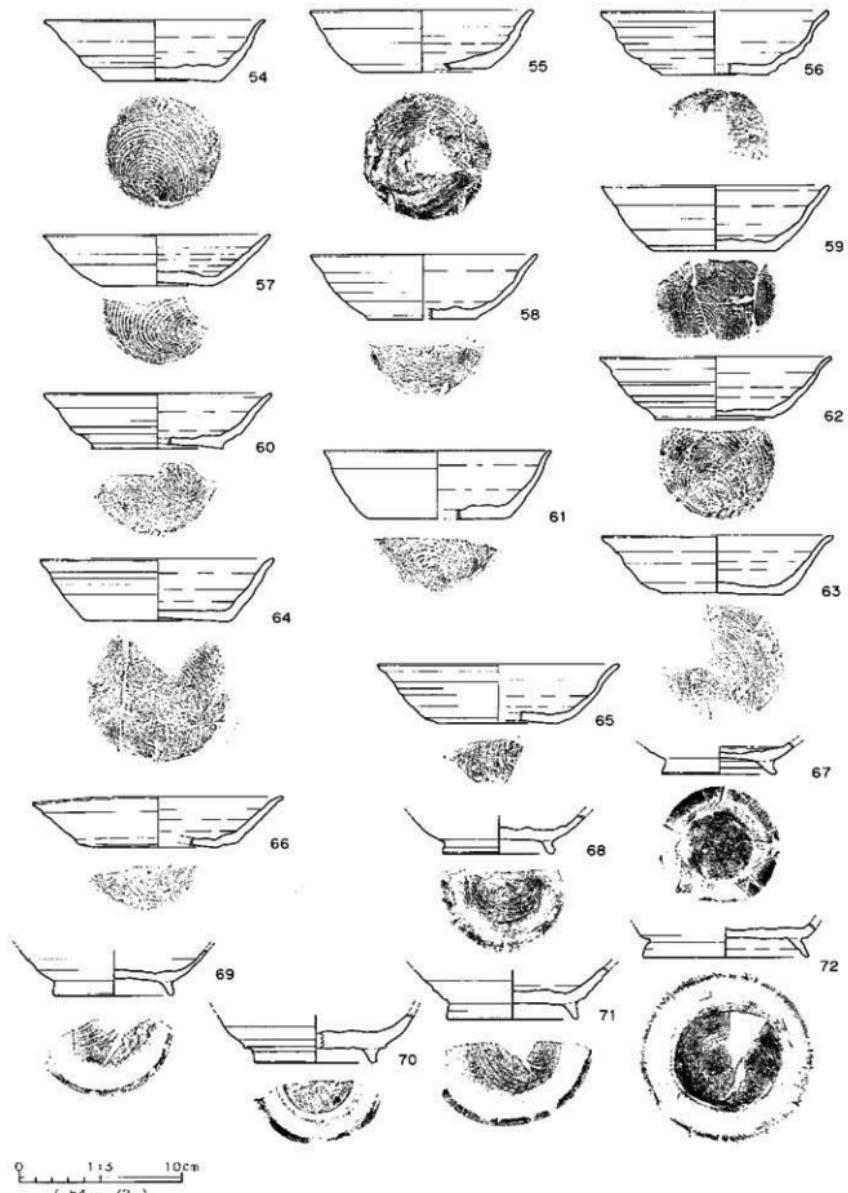
第20圖 1～5号住居址遺物実測図



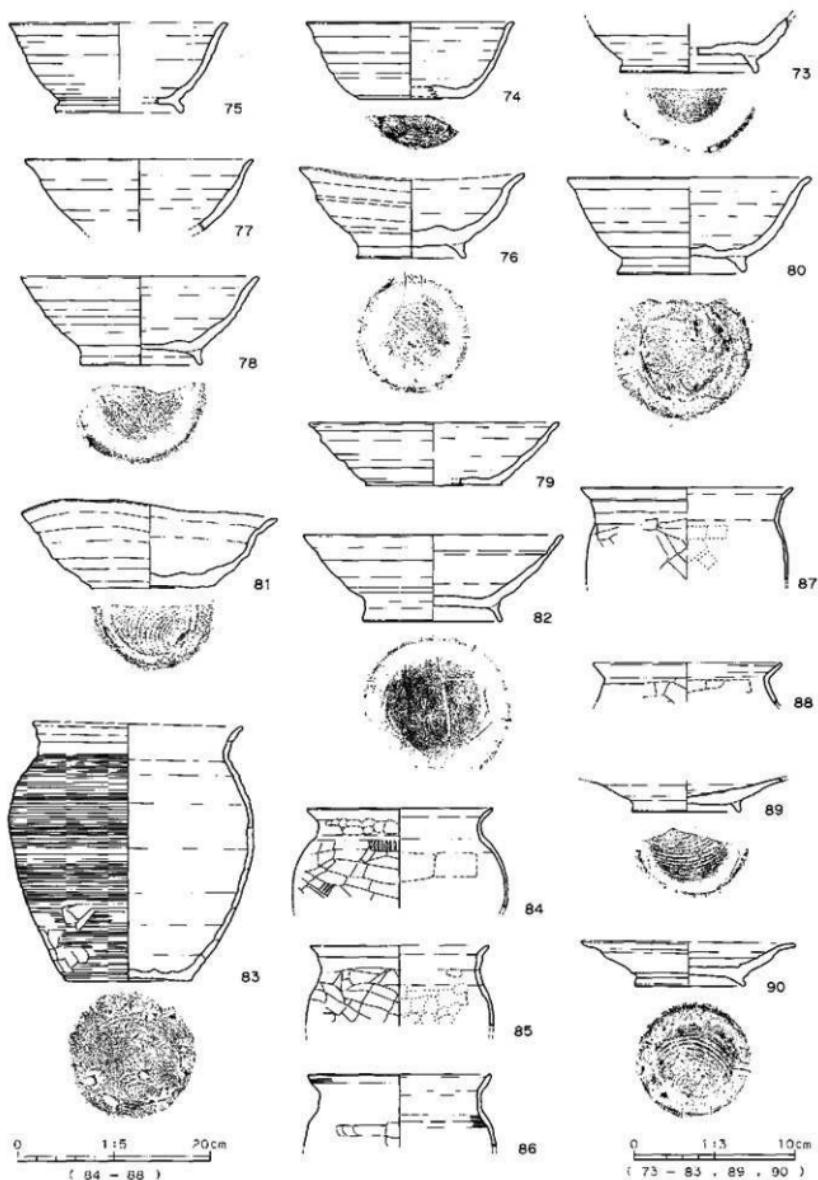
第21圖 5・6号住居址遺物実測図



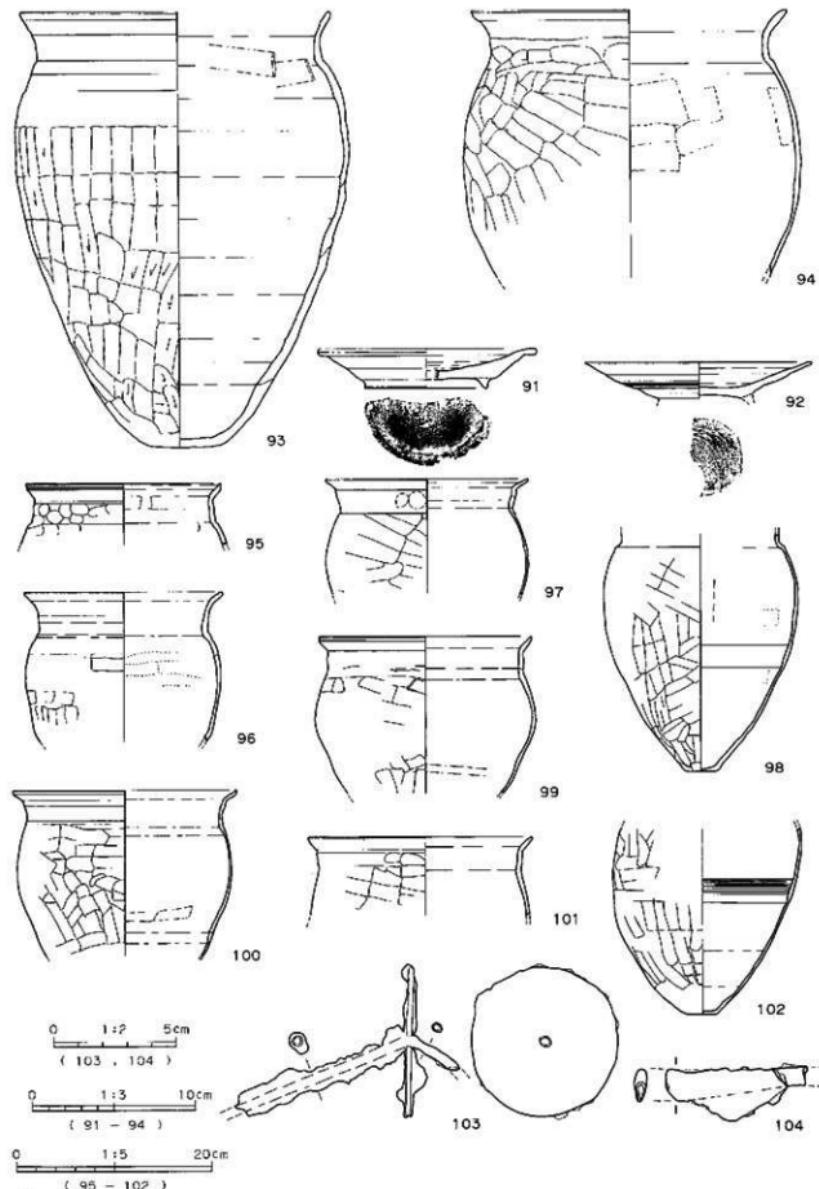
第22圖 6～8 双生居址遺物実測図



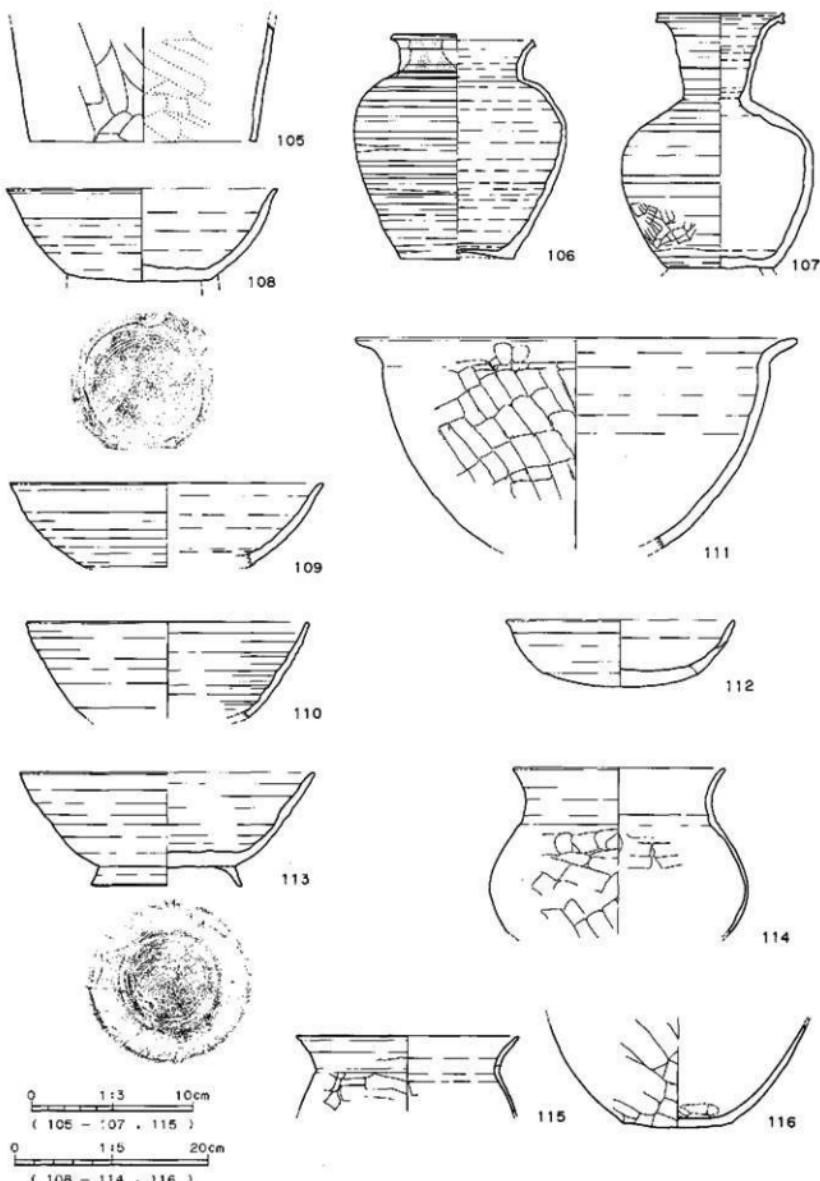
第23圖 8号住居址遺物実測図



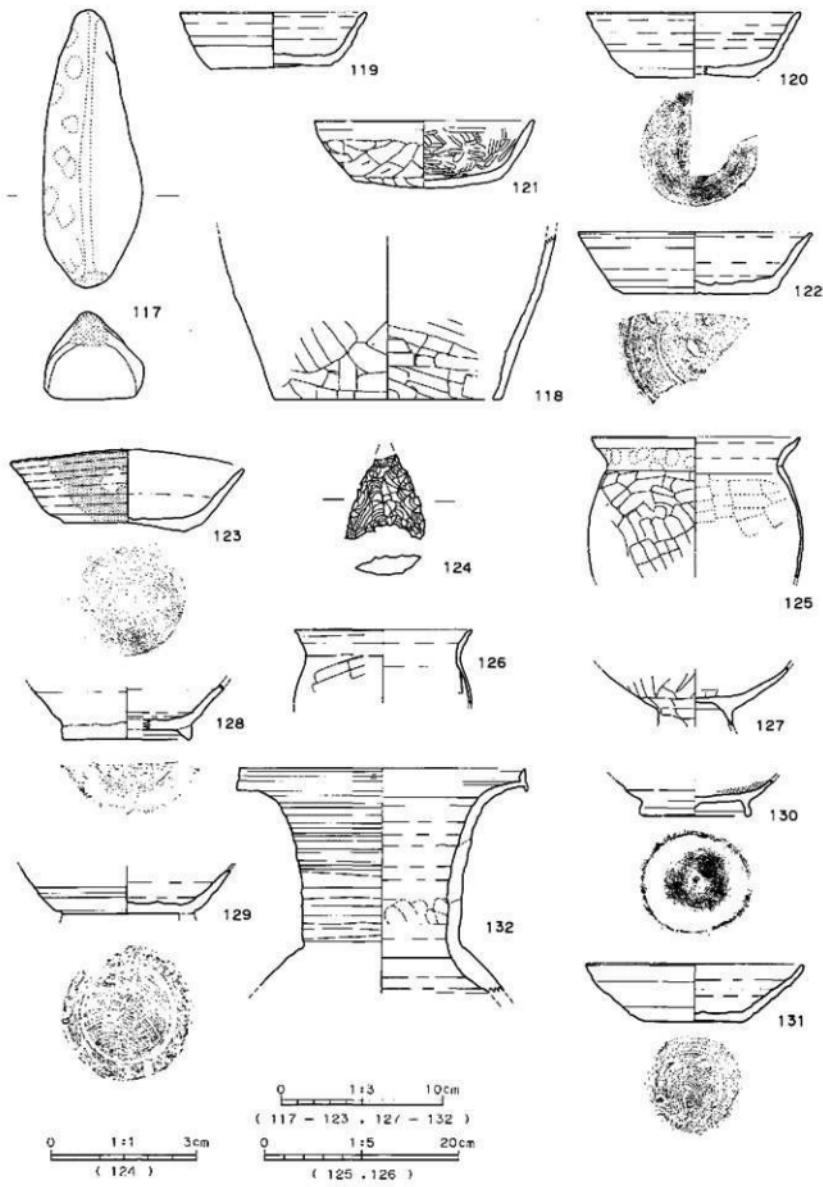
第24图 8号生居址遗物实测图



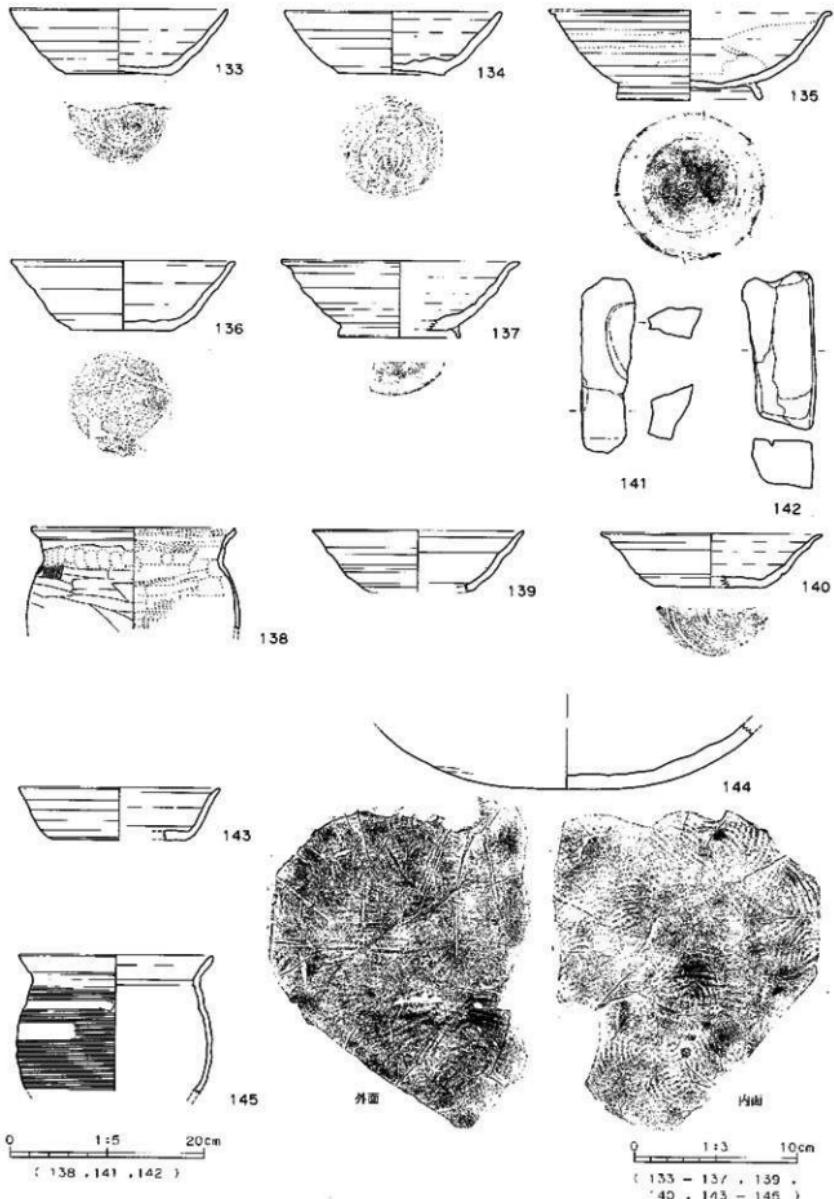
第25圖 8號居址遺物實測圖



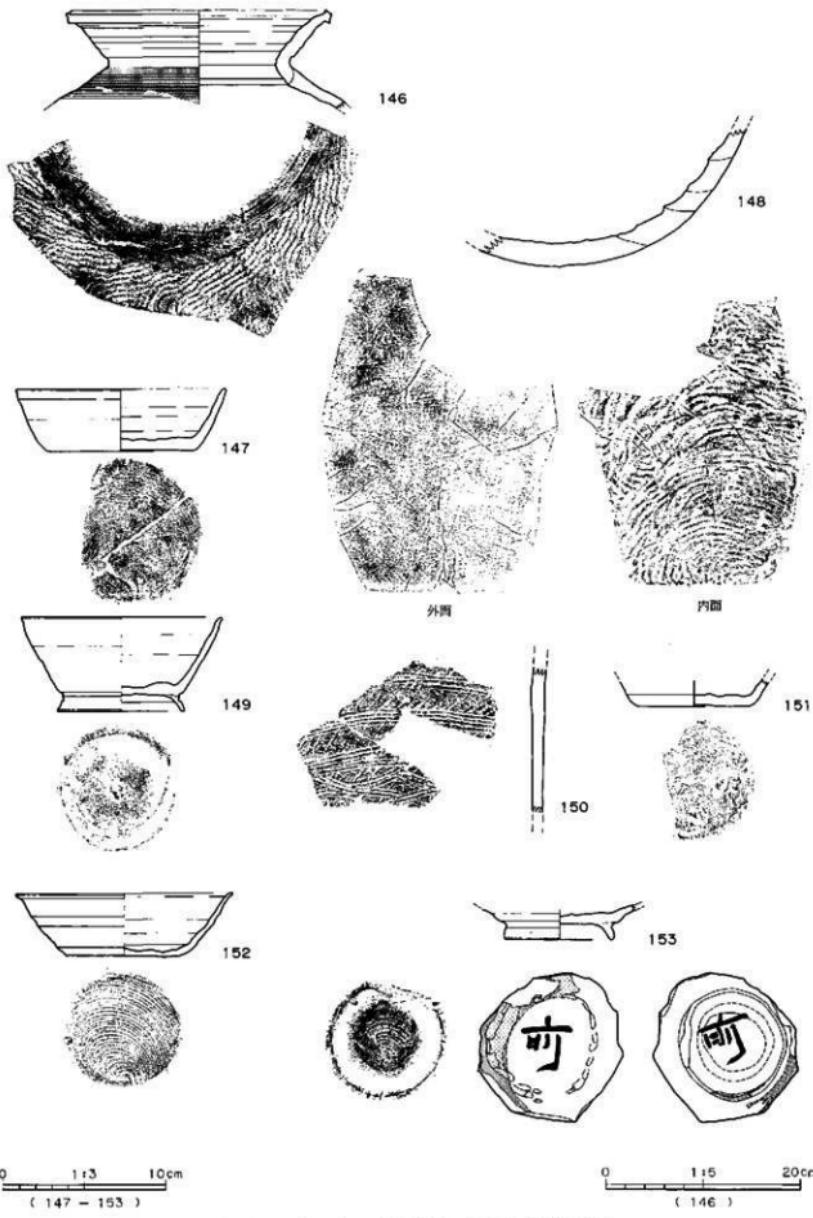
第26図 8~10号住居址遺物尖端圖



第27圖 11号～13号住居址遺物実測図



第28圖 13号・14号住居址 1・2号土坑遺物実測図



第29図 2号・4号・5号土坑グリッド及び—括遺物実面図



下増田下原遺跡全景 空中写真



調査前現況 東側より



調査前現況 南側より



作業風景



縄文住居址と2号土坑

図版2



縄文住居址掘り方



縄文住居址遺物出土状況



縄文住居址遺物出土状況



2号住居址



3号住居址



4号住居址



4号住居址 カマド



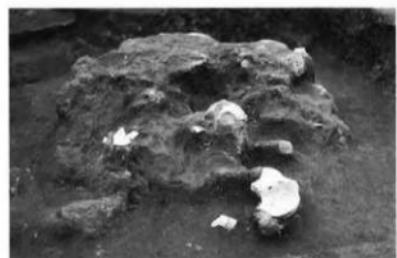
4号住居址No.11出土状況



4号住居址掘り方



5号住居址



5号住居址 カマド



5号住居址遺物出土状況



5号住居址No13出土状況



5号住居址No17出土状況



6号住居址遺物出土状況



6号住居址

図版4



6号住居址掘り方



6号住居址 カマドセクション



6号住居址No34・35・37出土状況



6号住居址 カマド支脚出土状況



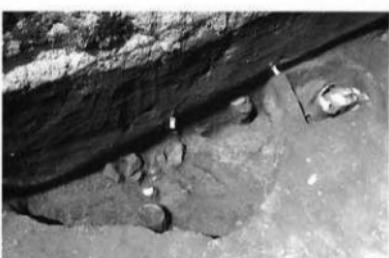
6号住居址 カマド



6号住居址No27・29出土状況



6号住居址No26出土状況



7号住居址No42・43・46出土状況



8号住居址遺物出土状況



8号住居址



8・9・10号住居址掘り方 西側より



8号住居址No93・106・107出土状況



8号住居址No76・96出土状況



8号住居址No83他出土状況



8号住居址No51・55・78・82・91出土状況



8号住居址No94カマド煙道部の甕

図版6



8号住居址カマド全景



8号住居址カマド全景 焚き口部より



8号住居址カマド掘り方 (砂岩の設置状況)



8・9・10号住居址



9号住居址カマド



9号住居址No108・111出土状況



9号住居址カマド焚き口部より



11号住居址



11号住居址掘り方南側より



11号住居址掘り方東側より



12号住居址カマド遺物出土状況



13号住居址遺物出土状況



13号住居址カマドセクション



13号住居址カマド遺物出土状況



13号住居址カマド



13号住居址No.133・137出土状況

図版8



13号住居址No132出土状況



13号住居址No135出土状況



13号住居址No131出土状況



14号住居址



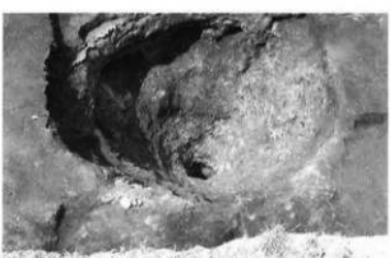
14号住居址掘り方



14号住居址遺物出土状況



10号柱穴



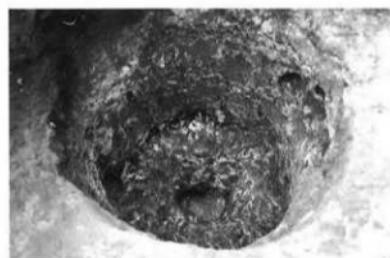
1号土坑



1号土坑 セクション



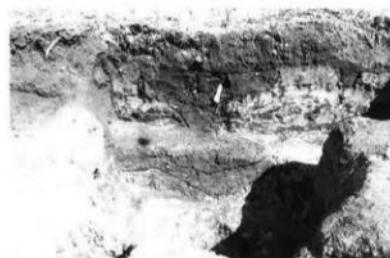
2号土坑No146出土状況



2号土坑



4号土坑



5号土坑



A区全景

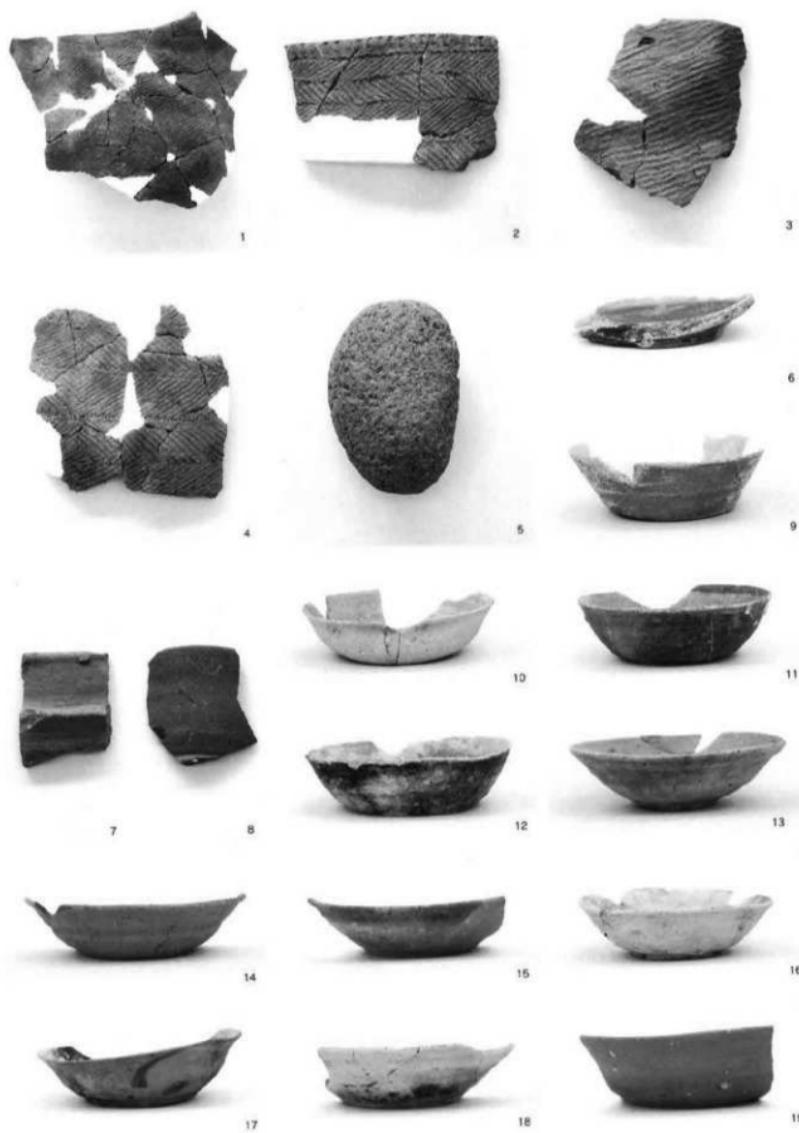


掘立柱建物跡と柱穴群



調査完了状況

圖版10



图版11



20



21



22



23



24



25



26



27



29



30



28



33



31



32



34



41



42

図版12



35



36



37



38



39



40



45



43



44



46



47



48



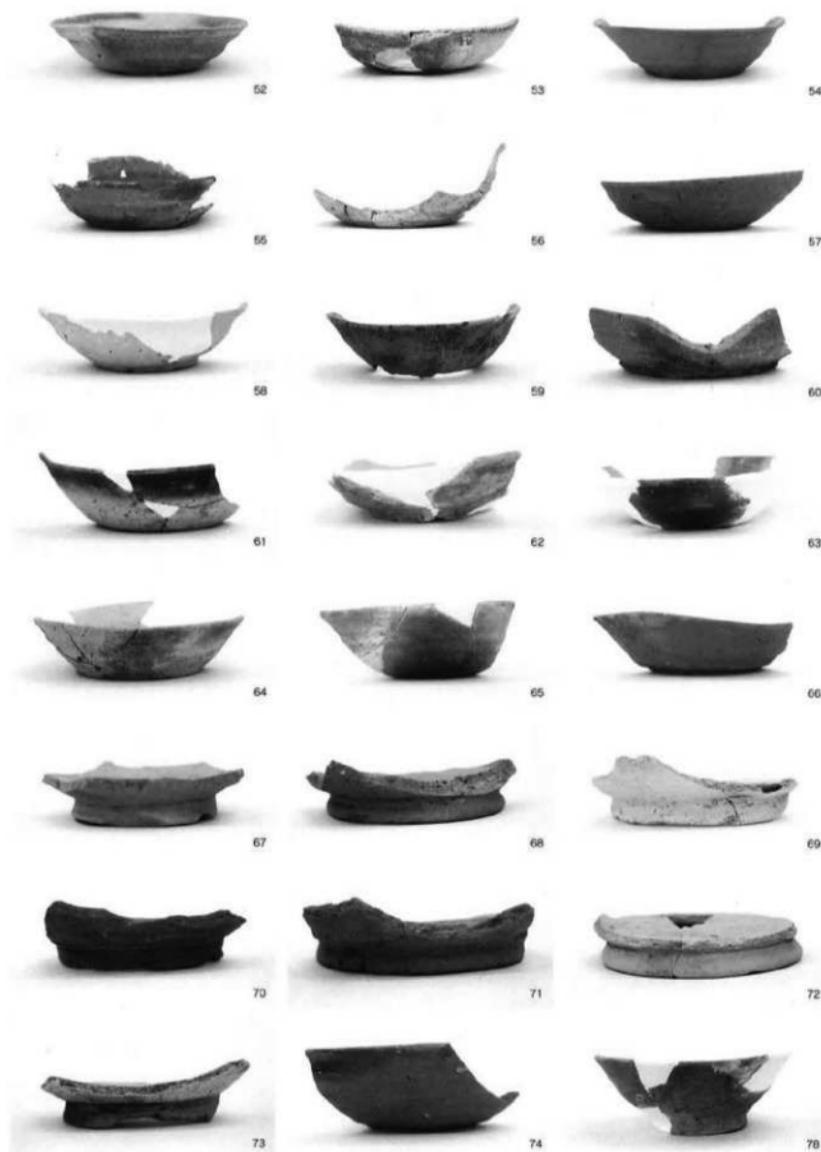
49



50



51



図版14



75



76



77



79



80



81



82



83



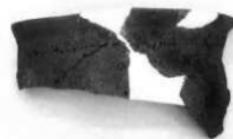
84



85



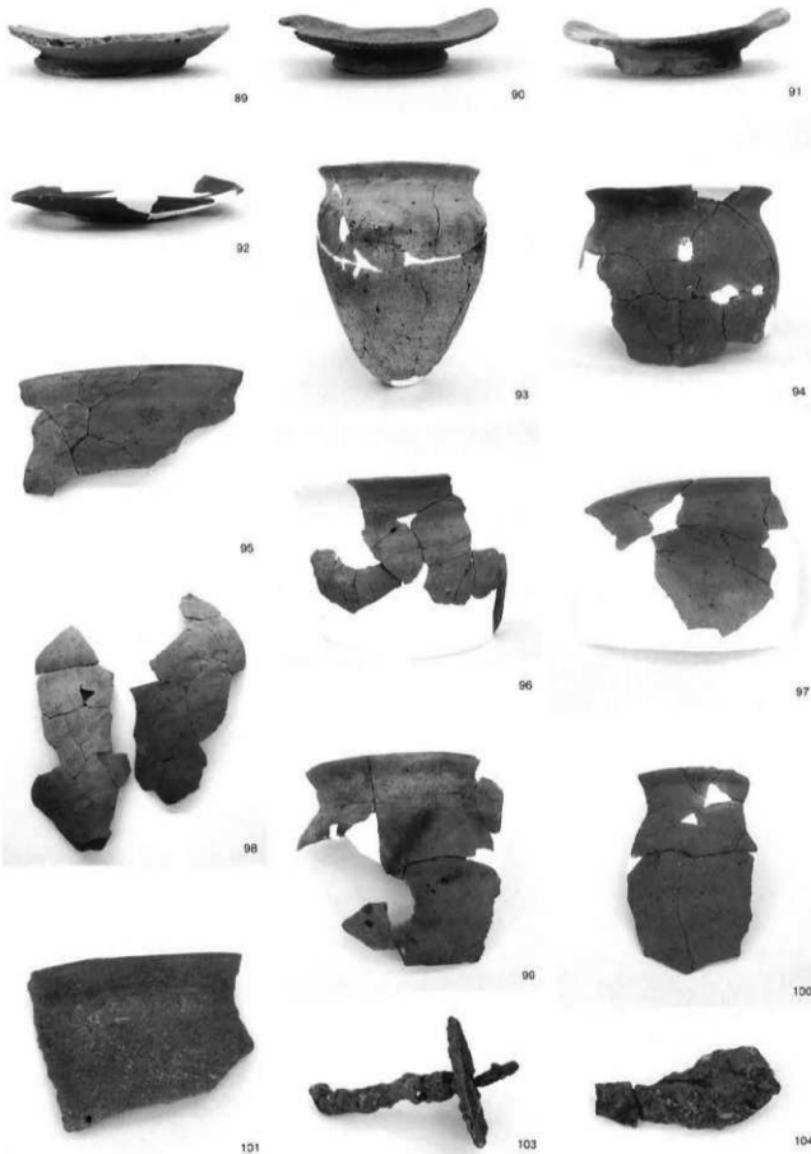
86



87



88



圖版16



102



105



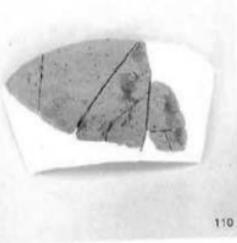
106



107



109



110



111



108



112



113



114



115



116



117



120



119



118



121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136

图版18



137



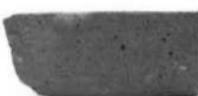
140



139



138



143



144



145



146



147



148



149



151



150



153



152



153



153

## 抄 錄

フリガナ	シモマスダシモハライセキ							
書名	下増田下原遺跡発掘調査報告書							
副書名	一般県道 八本松・松井田線特別道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	松井田町下増田下原遺跡調査会報告書							
シリーズ番号	1							
編著者名	スナガ環境調査株式会社 金了正人							
発行	松井田町下増田下原遺跡調査会 (松井田町教育委員会事務局内)							
発行機関所在地	〒379-0292 群馬県渋水郡松井田町大字新堀245番地							
発行年月日	西暦2001年3月25日							
フリガナ遺跡名	シモマスダ シモハライセキ							
所収遺跡名	下増田下原遺跡							
フリガナ所在地	群馬県渋水郡松井田町大字下増田字下原2674-1番地外							
所収遺跡所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
104019			36°19'34"	138°49'27"	1998.2.19	1998.3.25	2,700m <sup>2</sup>	道路改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下増田下原遺跡	集落跡	縄文時代前期	绳文住居1軒	丸窓の土器 漢鉢取土器	
		奈良・平安時代	住居14軒	土器・須恵器 壊壊鉢 鉄製紡錘車	
	土坑	奈良・平安時代	土坑5基	土器・須恵器	
		奈良・平安時代	掘立柱建物跡1棟	土器・須恵器	
	柱穴群	奈良・平安時代	柱穴群34基	土器・須恵器	
		不明	風倒木痕5箇	なし	

14. 調査に参加した方々(順不同・敬称略)

内山 恵美子	都丸 慶子	中川 住一	山崎 勘治	二上 良夫
大此 加代子	武井 健	佐藤 小智子	金井 俊明	小坂鶴 みち子
小坂鶴 君江	中島 作次郎	阪本文 吉	半玉 静子	松坂 英子
神戸 敦子	柳沢 尚司	小坂橋 守	浦野 美奈子	山越 梅子
岩井 ひで	吉木 律子	萩原淳一	増田 トヨミ	萩原 審巳司
瀬木 雪江	三村 梨子	梅本 きみ子	松本 芳	

### 下増田下原遺跡

2001年3月20日 印刷  
 2001年3月25日 発行  
 発行 松井田町下増田下原遺跡調査会  
 編集 スナガ環境調査株式会社  
 前橋市青柳町211番地の1  
 印刷 朝日印刷工業株式会社